



立命館大学 文学部

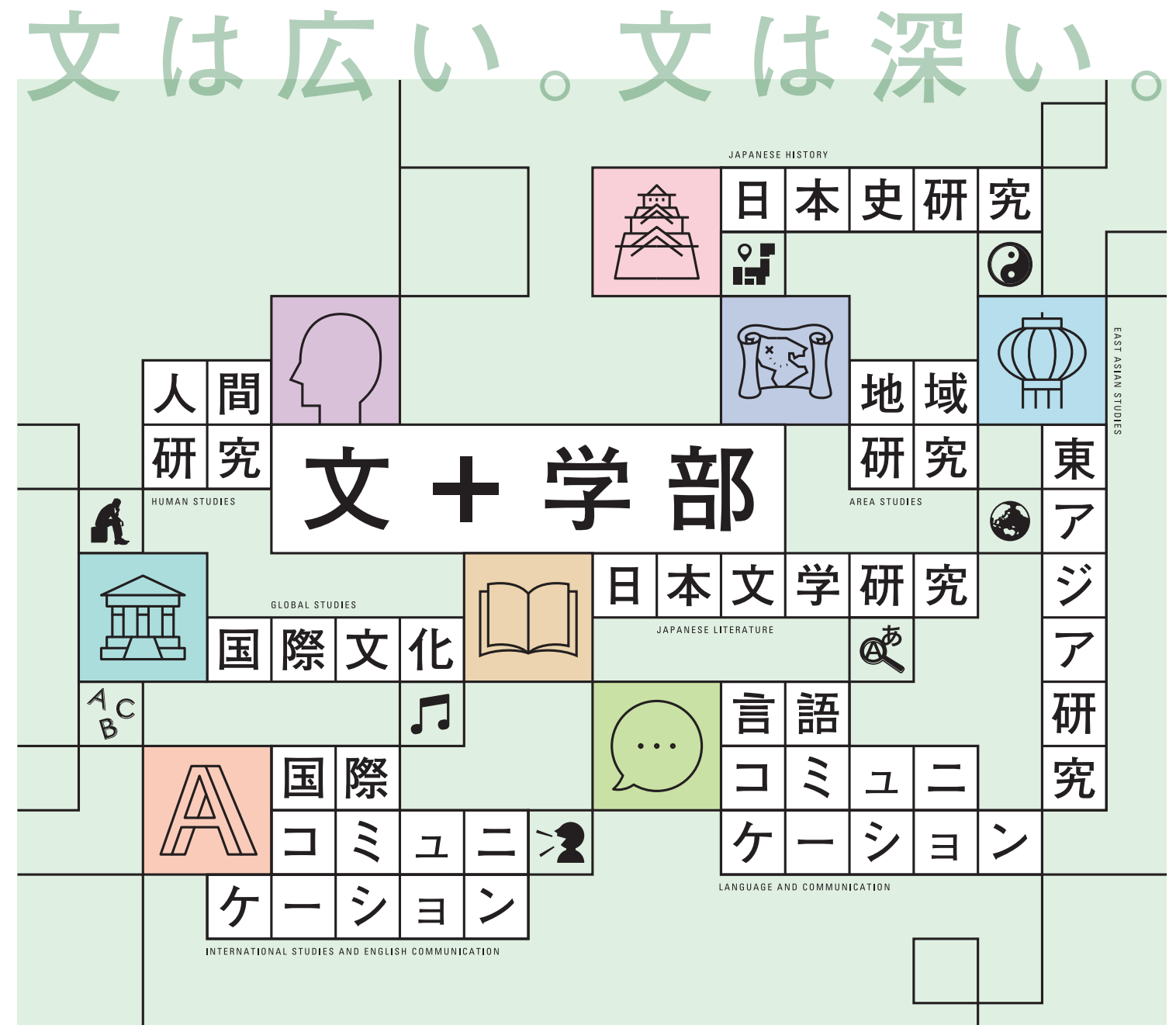
RITSUMEIKAN UNIVERSITY COLLEGE OF LETTERS

文 + 学部

文は広い。文は深い。



RITSUMEIKAN UNIVERSITY COLLEGE OF LETTERS



立命館大学 文学部

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL 075-465-8187

ホームページには教員コラムや在学生の声も掲載しています。

<https://www.ritsumei.ac.jp/letters/>



文＋学部

文は広い。文は深い。

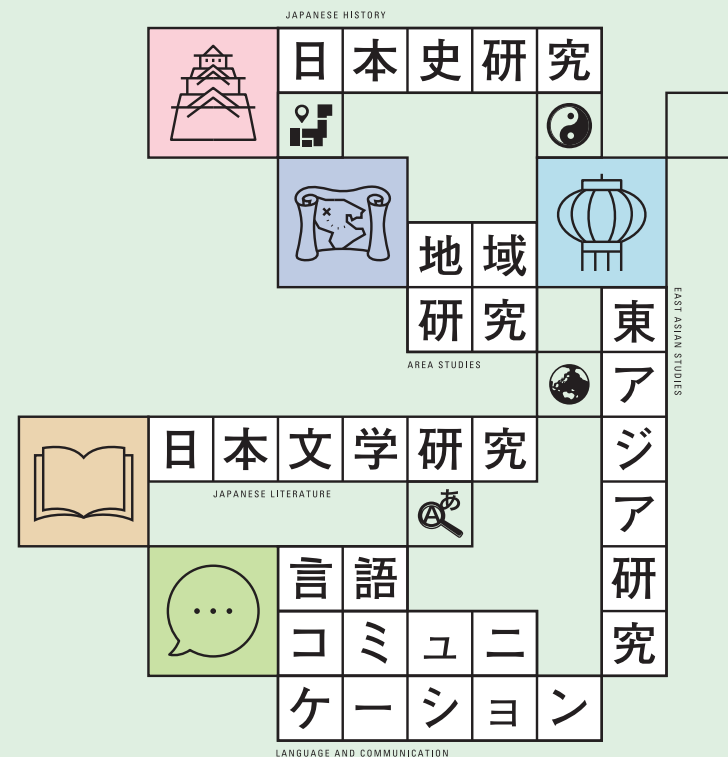
ほんとうに社会が変わるのは、
新しい技術が生まれた時ではなく、
ことばによってその技術に
意味が与えられた時ではないでしょうか。

ほんとうに人が豊かになるのは、
新しい物や情報を手に入れた時ではなく、
ことばによってそれらの価値を
見出した時ではないでしょうか。

人間は、自分たちの営みをことばにすることで前へと進み、
その歩みを書き記すことで、知を積み重ねてきました。

文学部は、「文＝ことば」と「知」を
あつかう総合学部です。

文を学ぶということは、先人たちの残した途方もなく、
かけがえのない知の集積を受け継ぎ、
そこから新しい価値を生み出していくこと。



多様な視点から文化・歴史などを学べる専門教育

文学部は「文学＋部」ではなく、「文＋学部」です。「文＝ことば」と「知」を扱う総合学部であり、欧米やアジアを中心に古代から現代までの各国の歴史や文化、そして哲学、文学、美術、演劇、音楽、言語、地理など8学域18専攻、100名を超える教員によって多様な専門科目が開講されています。文学部では、所属する学域・専攻以外の科目も受講が可能です。開講されている専門科目の約8割は文学部全員が受講できる科目となっており、専門を深めながら関連する学問領域などを興味に合わせて学ぶことができます。

人間研究学域	●哲学・倫理学専攻 ●教育人間学専攻
日本文学研究学域	●日本文学専攻 ●日本語情報学専攻
日本史研究学域	●日本史学専攻 ●考古学・文化遺産専攻
東アジア研究学域	●中国文学・思想専攻 ●東洋史学専攻 ●現代東アジア言語・文化専攻
国際文化学域	●英米文学専攻 ●ヨーロッパ・イスラーム史専攻 ●文化芸術専攻
地域研究学域	●地理学専攻 ●地域観光学専攻
国際コミュニケーション学域	●英語圏文化専攻 ●国際英語専攻
言語コミュニケーション学域	●コミュニケーション表現専攻 ●言語学・日本語教育専攻

RITSUMEIKAN UNIVERSITY
いろいろな領域を横断して、
多様な価値観や知の営みにふれる。
COLLEGE OF LETTERS

学域・専攻を超えて横断的に学ぶ

フィールドワーク型実習やインターンシップを通じて、京都の歴史・地理・文学などを複合的に学ぶ「京都学コース」、人文学の多様な分野が持つテーマや素材、資源に対して、デジタル技術を活用・応用し人文学を探究する「デジタル人文学コース」、人文学系の題材を教材に、高度な英語運用能力を身に付けると同時に、欧米圏の大学院へ進学できるレベルのリーディング、ライティングを学ぶ「英語・アドヴァンストコース」などがあります。なお、国際コミュニケーション学域の学生は、類似の科目を学域・専攻の専門科目として履修するため、「英語・アドヴァンストコース」への応募はできません。



京都の祇園界隈でのエクスカーショ



文化資源のデジタルアーカイブ作業

AIやIoT、ビッグデータのように
人間がかつて扱ったことのない技術が
広がろうとしている今だからこそ、それに意味を与え、
より良い方向へ導ける人が求められています。

そして、私たち人間だからこそ育める、
こころのなか、あたまのなかの豊かさが、
今こそ求められています。

過去の知へと自在にアクセスしながら、
自ら問題設定と判断を重ね、
時代がどのように変化しようとも
しなやかに歩んでいける人を育むこと。

それが、私たち文学部の願いです。

[京都学コース科目一覧]

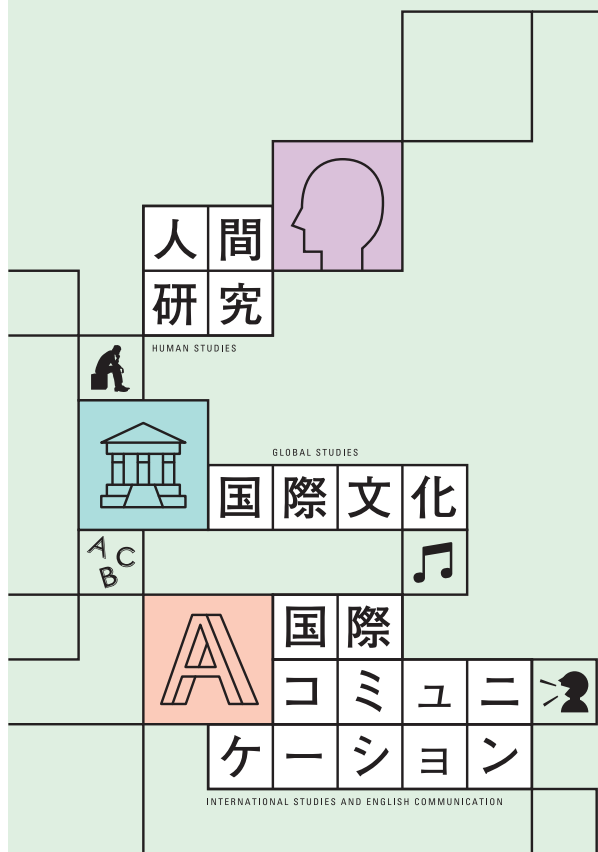
科目区分	科目名
講義	京都学入門(人文学の融合)
	京都学概論(人文学と地域社会)
	京都文化論Ⅰ(京都と歴史)
	京都文化論Ⅱ(京都と日本文学)
	京都まちづくり史
	京都の美術
	京都学フィールドワークⅠ
演習	京都伝統工芸研究
	京都学リージョナルスタディ
	京都学研究法
	京都学フィールドワークⅡ
	京都学フィールドリサーチ
	京都学演習

[デジタル人文学コース科目一覧]

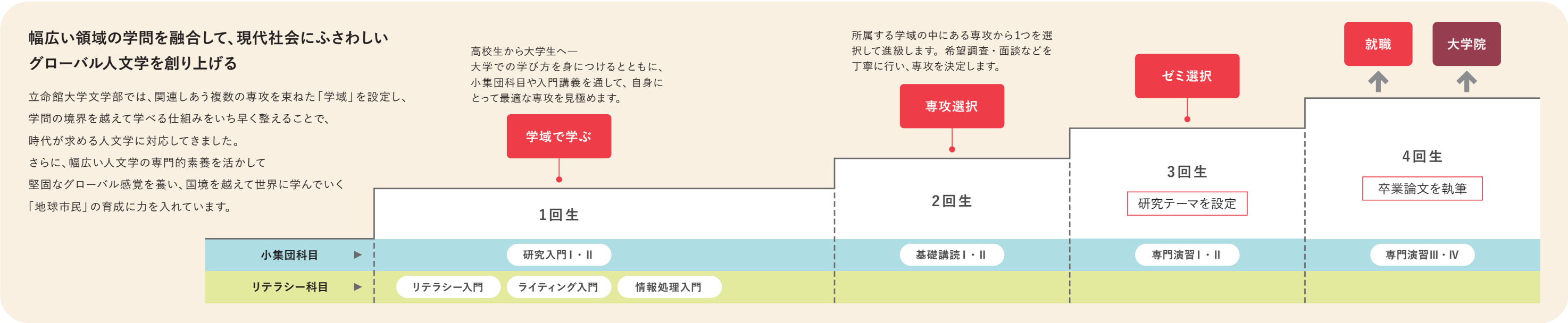
科目区分	科目名
講義	デジタル人文学入門
	デジタル人文学概論
	人文学のための情報処理
	図書館情報技術論
	図書館情報資源概論
	情報倫理と著作権
	デジタル人文学探究
演習	コンピュータグラフィックス演習
	テキスト情報処理演習
	空間情報処理演習
	デジタルアーカイブ演習
	プログラミング演習
	データベース演習

[英語・アドヴァンストコース科目一覧]

科目区分	科目名
演習	Academic Writing & Presentation Ⅰ
	Academic Writing & Presentation Ⅱ
	English Reading & Discussion Ⅰ
	English Reading & Discussion Ⅱ
	Academic Listening and Study Skills Ⅰ
	Academic Listening and Study Skills Ⅱ



大学での学びをより豊かにする初年次教育と学域制度。



人間研究学域

[募集人数 120名]



- 哲学・倫理学専攻
- 教育人間学専攻

人間を根源的に見つめ直し、
人間であることに関わる知の可能性を切り拓く。

人間研究学域は、哲学・倫理学専攻と教育人間学専攻で構成されます。両専攻は人文学の中心問題である〈人間〉を、根源的な次元に立ち返って捉え直し、あるいは社会的な諸事象を通して統合的に探究します。「人間とは何か」、「生きる意味」といった今日の人間の問題に迫り、人間の可能性、人知の可能性を創造的に切り拓いていくことが、共通の課題となります。

日本文学研究学域

[募集人数 125名]



- 日本文学専攻
- 日本語情報学専攻

言葉・絵画・映像を読み解き、
現代社会における日本文学・日本語の意義を探求する。

日本文学研究学域は、日本文学専攻と日本語情報学専攻とで構成されています。言葉、絵画、映像に託された情報を精緻に読み解くことで、国際化する現代社会における日本文学、日本文化・芸術、日本語の意義を探求します。また、高度情報化社会における人と言葉・情報とをめぐる問題の発見、解決にも取り組んでいます。

日本史研究学域

[募集人数 140名]



- 日本史学専攻
- 考古学・文化遺産専攻

日本史から政治・社会・文化を解明、
新しい時代を切り拓く。

日本史研究学域は、日本史学専攻と考古学・文化遺産専攻で構成されます。主として文字で書かれた史資料を対象とする方法と、遺跡や遺物を中心とする文化遺産を対象とする方法が、相互に研究成果をとりいれながら、新しい日本史像を構築します。歴史研究をつづじて明らかにされる政治・社会・文化の諸問題は、現代社会を解く鍵ともなるでしょう。

東アジア研究学域

[募集人数 100名]



- 中国文学・思想専攻
- 東洋史学専攻
- 現代東アジア言語・文化専攻

ダイナミックに発展するアジア、
その新時代を担う人材を育てる。

東アジア研究学域は中国文学・思想専攻、東洋史学専攻、現代東アジア言語・文化専攻で構成されます。アジア諸国の発展にともなって、わが国には現在、新たな国際戦略が求められていますが、中国・韓国を中心とする東アジア地域を地理的範囲とし、その歴史や言語、伝統的文化から現代の文化までを幅広く研究対象とすることで、この現代的要請にも応えることができるでしょう。

国際文化学域

[募集人数 220名]



- 英米文学専攻
- ヨーロッパ・イスラーム史専攻
- 文化芸術専攻

多様な歴史・文化と向き合い、
グローバルな課題解決能力を養う。

国際文化学域は、英米文学専攻、ヨーロッパ・イスラーム史専攻、文化芸術専攻で構成されます。世界の成り立ちを歴史的に理解し、それを踏まえて多様な文化と向き合う態度を培うことが今日、きわめて重要な課題となっています。芸術・文学・歴史・思想といった、人間文化・社会の多岐に関わる諸学問を横断したうえで、このグローバルな課題に対応する能力を涵養します。

地域研究学域

[募集人数 130名]



- 地理学専攻
- 地域観光学専攻

地域的な観点から「人間」を探り、
現代的な諸問題に取り組む。

地域研究学域は地理学専攻、地域観光学専攻で構成されます。この2専攻が共通して対象とする「地域」とは、さまざまな現象が相互に影響し、絡み合うなかで、他とは区別される特徴を帯びた空間的な広がりを目指します。フィールドで学ぶことを基本としながらも、空間スケールを自在に変え、多角的な研究視点・手法も交えながら、現代的な諸問題に取り組めます。

国際コミュニケーション学域

[募集人数 120名]



- 英語圏文化専攻
- 国際英語専攻

英語圏文化の知識と高い英語運用能力を使い、
国際社会で活躍する人を育成します。

国際共通語としての英語学習を軸とし、英語圏の地域と文化、国際言語としての英語や教育について広く学びます。英語圏の文化と言語に関する諸科目や、それらと連携した学術英語科目（EAP、English for academic purposes）、短期・長期留学プログラムなどを通して、体系的な四年一貫教育を受けることも本学域の魅力の一つです。また、四年間の集大成として、英語で卒業論文を書くことが大きな特徴です。

言語コミュニケーション学域

[募集人数 80名]



- コミュニケーション表現専攻
- 言語学・日本語教育専攻

“ことば”と“コミュニケーション”にかかわる
多様な問いを探究し実践する。

コミュニケーション表現専攻では、多様なコミュニケーションの分析と実践を行います。また、新しいメディア環境における小説や歌、アナウンス、広告など、言語表現も対象とします。言語学・日本語教育専攻では、“ことば”を用いた思考やコミュニケーションを客観的に分析します。また、日本語を外国語として学ぶ人たちへの言語教育を、異文化間コミュニケーションの考えに基づいた実践から学びます。

それぞれの将来を見据え、専攻でより深く学んでいく。



人間研究学域

哲学・倫理学専攻

人間の根源的な問題に立ち返って
よりよく生きるための指標を見つける。

哲学・倫理学は、2600年もの歴史をもつ最古の学問です。哲学・倫理学を学ぶことは、思索の歴史をたどることであり、知の集積を自らの思考の糧とすることなのです。今、社会情勢は驚くほどのスピードと多面性をもって激しく変化しています。既存の価値観が大きく揺らぎ、新時代にふさわしい考え方が求められています。こんな時代だからこそ、「人間とは何か、どう生きるべきか、世界とは何か」という根源的な問いかけが大切です。哲学・倫理学専攻では、すべての学問の基礎となり、人生の指標を得ることにつながる哲学・現代思想と倫理学・応用倫理学を系統的に学びます。

[卒業論文一例]

- ジョゼフ・バトラーにおける良心論について
- 様相論理と時制論理の並行性について
- 生きがいとしての「遊び」—有用性の外にある人間らしさ
- メルロ＝ポンティの身体論と可逆性
- 道德的な運におけるバーナード・ウィリアムズの道德批判



教育人間学専攻

人間・教育・心の3領域を連動させて
現代社会が抱える問題にアプローチする。

教育人間学専攻では、人間形成と教育に関わるさまざまな事象を多面的に探究していくなかで、人間のあり方を総合的に考えます。心身の関係、健康、意識の深み、生と死、生きる意味、自己実現といった現代社会が抱える人間の問題に迫り、解決に導く学問です。授業には実習形式をふんだんに採り入れ、体験や実践を重視しながら、人間の内面や人間関係、社会に対する理解と洞察力を高めていきます。教育と人間に関わる総合的な研究活動を通して、人間であること、教えることと学ぶことを根底から支える「生きた知」の修得を目指します。

[卒業論文一例]

- 老婆たちはどう生きるか—『ハウルの動く城』を手がかりに
- 学校現場におけるジェンダー・バイアスについて
- 自己肯定感の再考
- 水子供養にみる日本人の死生観と子ども観
- ネガティブな感情を抑制することが身体に与える影響について



日本文学研究学域

日本文学専攻

日本文学の故郷・京都で多様な研究成果に触れながら
作品に新しい光を当てる。

古事記、万葉集、源氏物語などから近世、近現代にまで至る多様な日本文学を鑑賞し、作品に盛り込まれた意味を解明します。先人の研究をひも解くことが学びの基本となりますが、今日までの学問的蓄積を踏まえつつ、さまざまな角度から切り込む最新の手法により、作品の理解と批評に新たな光を当てていきます。多くの文学作品が生まれた京都の地の利を活かし、先人の研究成果を論文や資料で確認しながら研究に取り組むこともでき、絵画や演劇、映像分野の研究、外国文学の比較研究といった新たな研究にも挑戦できます。

[卒業論文一例]

- 頭中符の「からかい」
- 『夜の寝宴』論
- 『千と千尋の神隠し』における異郷訪問型の受容
- 坂口安吾「夜長姫と耳男」論
- 古館春一『ハイキュー!!』と現代社会—マンガのむつ力について—



日本語情報学専攻

情報技術を駆使して、日本語の多様性、現代における
図書館の役割を探求する。

日本語は、千数百年以上にわたる長い歴史を持つ言語であり、地域、世代、性別などによる多様な姿を見せています。この日本語の変遷、多様な実態を解明するために、「コーパス」（大規模な言葉のデータベース）を使った日本語研究に取り組みます。図書館は、新しい文化の創造に多大な貢献をしてきましたが、情報化の進む現代ではその役割も変わりつつあります。この専攻では、情報化社会における図書館の役割といった今日の課題にも取り組んでいます。また、図書館司書課程の授業も開講しています。

[卒業論文一例]

- 商品名におけるオノマトペの計量的研究—コンビニ3社を中心に—
- インターネットの普及に伴う「炎上」の意味変化
- 歌詞の計量的分析—「校歌らしさ」とはどこからくるのか—
- 少年院における読書活動及び図書館連携の実態調査と分析
- 公立図書館における音楽資料収集の実態と課題



日本史研究学域

日本史学専攻

日本の歴史をあらゆる角度から読み解き
現代、そして未来の本質を探究する。

積み重なった歴史がいかに現代へとつながり、これからどんな時代を創っていくのか、その本質を探究することが日本史学の醍醐味です。世界遺産クラスの社寺をはじめ多様な歴史的資産が点在する京都で、日本史を学ぶための研究技術や方法論、歴史観を学修します。充実した歴史的文献を活用しながら、国際的な歴史学、民俗学や美術史など周辺諸学の動向にも目を配り、日本の歴史を政治・社会・文化・対外関係など幅広い領域から学修・研究します。必要に応じて絵画史料、もの史料、聞き取りなども有効に活用して、幅広い視野から日本史を見つめる目を養います。

[卒業論文一例]

- 皇位継承と天武朝における系譜意識
- 織田信孝と禁制—〈交渉型〉禁制を中心に
- 京都府における民力涵養運動
- ゲイ雑誌にみる一九七〇年代以降のカミングアウト／アイデンティティ／コミュニティの変遷



考古学・文化遺産専攻

人類共通の財産である遺跡・遺物を次代に継承し
有効活用する方法を学ぶ。

遺跡や遺物の研究を通じ、社会や文化の成り立ちを解明していく学問です。文字や言葉では探り切れない時代や社会の側面に触れることで、幅広い視野を身につけます。日本列島だけではなく周辺地域や世界にも目を向け、日本に対する客観的・多元的な理解を目指しています。また、遺跡・遺物の文化遺産としての価値を社会に還元するための保存と活用に関する学習も行います。実践的な調査方法や自然科学的研究を実習するとともに、学芸員課程の授業とも関連したカリキュラムで将来につながる能力を養います。古都、京都で学べることも大きな魅力です。

[卒業論文一例]

- 「伝統」はどこにあるべきか—京都の染色産業を事例に挙げて—
- 陶器製手榴弾から見る陶磁器製兵器の実相
- 畿内地域を中心とした竪穴式石塚の研究
- 津波記念碑の研究
- 弥生時代の井戸の初現期の様相



東アジア研究学域

中国文学・思想専攻

文学・思想から豊かな知識を学び
アジアと世界の未来を展望する。

中国で生まれた漢字は東洋の文化圏形成の核となり、中国の文化は東アジア地域全体の基盤となってきました。これからのアジアを考えるには、その豊かな文学・思想を学び、現在を見据えることが欠かせません。中国文学・思想専攻では、大学所蔵の膨大な文献を活かしながら、時代やジャンルごとのエキスパートが研究を導きます。文学と思想に息づく人間の心の本質を学び、世界で活躍するアジア発の国際人を目指します。

[卒業論文一例]

- 『孫子』の商業性について
- 漢文研究における生成AIの有効性について
- 中国の花文化—唐宋詩における牡丹
- 『懐風藻』七夕詩に見られる中国の影響



東洋史学専攻

歴史・文化を読み解くことを通して
アジアの未来について考える。

近年、中国をはじめとするアジア諸国は急速な経済発展を遂げ、文化面でもその存在感を増しつつあります。東洋史学専攻では、アジア社会の歴史・文化を読み解き、時代や地域を視野に入れながら、その構造を理解することを目指します。アジアの経済発展や政治的紛争の要因を解明するカギもそこにあります。東アジア史の核となる中国の歴史研究は、日本の歴史を問うことにもつながります。アジアと日本の明日を考える学問です。

[卒業論文一例]

- 秦漢時代における刑罰制度
- 女子教育と女訓書—唐代を中心に
- 宋代杭州における出版文化について
- 清代の宮廷における女性の服飾文化



現代東アジア言語・文化専攻

中国・朝鮮半島の「今」を学ぶことで
新時代を担う国際人として成長する。

東アジアに位置する中国、朝鮮半島、日本は古来から文化交流を続け、わたしたちが生活する21世紀の日本においても、中国や韓国からの旅行者や製品、文化的コンテンツを見ない日はありません。現代東アジア言語・文化専攻では、一番近い外国である中国や朝鮮半島の近代から現代に関するさまざまな問題について専門的に学びます。授業や海外実習を通じて、実践的な語学力を習得し、現地に密着した東アジアのリアルを学びます。

[卒業論文一例]

- 韓国の徴兵制—国防の義務が抱える矛盾
- 『良友』画報から見る近代旗袍の流行と変遷
- 中国におけるキャラクター文化の受容—サンリオの中国進出に焦点を当てて



それぞれの将来を見据え、専攻でより深く学んでいく。



国際文化学域

英米文学専攻

英語圏の文学・文化研究を通して
社会と人間への考察を深める。

英米を中心とする英語圏の文学作品研究を通して、英語表現の特性、作品の文化的・歴史的背景、人間と社会の関係のあり方について考えます。さらに言語的感性を高め、異文化への理解を深めます。また、「英会話」「英作文法」「英文演習」「翻訳演習」などの演習系科目やネイティブの教員による科目を通して「読む・書く・聞く・話す」能力とともに、高度な表現力と論理的思考力、高度なコミュニケーション能力を養成します。

[卒業論文一例]

- Harry Potter シリーズの死生観
- Hamlet と復讐悲劇の特性
- Romeo and Juliet のバルコニー・シーンに見る愛の軌跡—シェイクスピア劇とパレエにおける時空間演出



ヨーロッパ・イスラーム史専攻

ヨーロッパとイスラームの歴史から
グローバル化社会の未来を構想する。

交流や対立を繰り返してきた二つの文明を視野に入れることで、現代世界の成り立ちや構造を歴史的視点から幅広く考察し、過去と現在の対比から人間社会の多様性や可能性を探索します。また自分の問題意識をもとに時代や地域を越えた広範なフィールドを研究するためのアプローチを考えていきます。歴史的視野を広げることで、混とんとする現代のグローバル化社会にも敏感に対応できる力を養い、異文化への深い洞察力と豊かな創造力を培います。

[卒業論文一例]

- アルテミスに見る女神の連続性
～古代都市エフェソスを例に～
- ヨーロッパの紋章の変遷と騎士の
武具の関係性



文化芸術専攻

世界中のさまざまな文化に
多角的な視点でアプローチする。

さまざまな言語で展開される物語や宗教、信仰、ファッション、音楽、絵画、建築、マンガなど、多岐にわたる文化が対象です。文化人類学、芸術学、社会学、歴史学、言語学、文学など従来の学問の枠組みを越えた横断的な視点で世界が抱える多様な問題にアプローチします。世界と向き合うために必要な経験や、従来の研究方法ではたどり着けなかった新しい発見といった、かけがえのない可能性との出会いが待っています。

[卒業論文一例]

- 日本の幽霊イメージはどこから来たのか？
- ワイルド『サロメ』を能(謡曲)に変換する
- グローバル化するコスプレ空間と
アイデンティティの形成



国際コミュニケーション学域

英語圏文化専攻

英語圏の文化、社会、歴史について学び、
グローバルな幅広い視野を身につける。

北米、ブリテン島および周辺地域、オセアニア地域といった英語圏地域の文化・社会・歴史について学び、研究します。英語圏地域はグローバル化推進の重要な拠点の一つとして機能するなど、政治や経済において重要な役割を果たし、文化は現代の国際社会に大きな影響を及ぼしています。英語圏の動きは世界の動きと密接な関係を持っており、そうした動きを多面的・重層的に学ぶことで、将来、世界市民として活躍する上で不可欠な、広い視野を身につけます。文化の研究は人間洞察を深めます。また学術英語 (EAP) 科目や英語で提供される専門科目、留学プログラムを通じて、英語の運用能力を高めます。

[卒業論文一例]

- The Preservation of Maori Tradition Under the Oppression of the Pakeha
- The Global Rise of Medical Tourism:
A Study of Cosmetic Surgery in South Africa
- Analysis of the Successful Localization of Japanese Video Games
in English-speaking Countries



国際英語専攻

国際共通語としての英語力を高め、
グローバル時代の英語教育を牽引する教師を目指す。

グローバル化社会における様々な英語使用現象を、応用言語学の最新の知見などを基盤にして研究を深めます。更に、英語によるコミュニケーション能力を基礎として、論理的思考力、情報収集能力、批判的分析能力を含んだ英語リテラシーを身に付け、実社会で国際対話能力を応用できる人材を育てます。また、最新の応用言語学理論を用いた英語教育の研究を行い、学校英語教育に必要な知識と技術を実践的に身につけることができます。中学校・高等学校などの英語教員志望者は、専門性を生かしてグローバル化時代の英語教育に必要な知識・技術を実践的に身につけた教員になることを目指します。

[卒業論文一例]

- Gender Difference in "Angry" Voices: A Case Study of Movie Scenes
- Impacts of L2 Learning Background on Learners' Language Aptitude and Learning Strategies
- Comparison between Graphic Novel (Manga) and Traditional Novel in Aspects of Motivation and Vocabulary Acquisition



地域研究学域

地理学専攻

地表上の現象を
空間(地域・場所・景観)の視点から解き明かす。

地理学は、地表上で起こるさまざまな現象を空間的な観点から明らかにすることを目標としています。自然現象はもちろん、経済や文化といった人間の営みを研究対象として、多彩な手法(調査・分析)をもちいてアプローチします。災害や環境問題など、地域の自然や生活と密接にかかわる現代的な諸課題についても、フィールドワーク(現地調査)のみならず、世界でもトップクラスのGIS(地理情報システム)の設備・環境を活用して、積極的に取り組んでいます。人文科学・社会科学・自然科学などの知見を結びつけながら、地域や環境の課題を多角的に考える力を養う学問、それが地理学にほかなりません。幅広い視野と実践的な分析力を身につけ、社会に貢献する力を育みます。

[卒業論文一例]

- 福知山盆地における水害特性と防災対策
- 過疎地域における特別養護老人ホームの立地と介護サービスの現状
- 京都番組小学校校歌の制定経緯と地域景観
- グアテマラにおける伝統織物と女性の行動圏
- 柑橘栽培地域における技術・知識の獲得と営農の展開



地域観光学専攻

複雑な現象である観光を
地域に注目して多角的な視座から読み解く。

観光とは、グローバルな現代社会の特徴を濃厚に映し出している現象です。地域観光学専攻では、さまざまな移動に関わり合うなかで織りなされる、複雑で重層的な観光のすがたについて、地理学を中心に社会学や文化人類学などのアプローチから、地域に注目して読み解いていきます。文化・社会・歴史・経済などあらゆる側面に目配せしながら、フィールドワーク・質問紙調査法といった多様な調査手法をもちい、世界・国・都市・集落などのいろいろな空間スケールから観光現象について考察します。また、過去の観光現象についても当時の社会・経済状況に鑑みて検討します。観光業界だけでなく、このような複合的な学びから社会で広く活躍できる人材を輩出しています。

[卒業論文一例]

- Twitter データからみるアニメ聖地巡礼者の観光行動
- 第4次韓流ブームにおける K-POP ファンダムと観光
- 近代期における宝塚の観光空間形成とその特徴
- 松本市中心部における観光まちづくりの特徴
- 音楽フェスと地域社会との関係性



言語コミュニケーション学域

コミュニケーション表現専攻

“ことば”が人と人をつなぐコミュニケーション場面から
文章・音声表現までを研究・実践する。

コミュニケーションの理論や方法を学びながら、多様な“ことば”の表現の研究・実践を目指します。教育の柱は二つ。日常的な場面からプレゼンテーション・面接・接客・診療・演劇・スポーツまで、多様なコミュニケーションの分析と実践を学ぶ「コミュニケーション研究・実践」と、新しいメディア環境における文芸(小説・戯曲・歌・話芸)、放送(アナウンス・朗読)、広告など表現の分析と実践を学ぶ「言語表現メディア研究・実践」です。こうした学びから、自己と他者との関係性を再発見し、グローバル社会や変化するメディア環境に対応できる次世代型コミュニケーション能力を養います。

[卒業論文一例]

- 日常会話における話題の転換を促す認知的要因
- インタビュアーとインタビュイーの笑いの機能—笑いの生起位置に着目して—
- レジ会計場面における「受け手行動」のマルチモーダル分析
- BUMP OF CHIKEN の楽曲における感嘆表現の使用状況
- 創作小説「おじさんの虚像」～「おじさん構文」を取り巻く人々の群像劇～



言語学・日本語教育専攻

“ことば”のもつ働きや仕組みを学び、さらに、
実践を通じて異文化間コミュニケーション能力を養う。

言語学と総称される、“ことば”を用いた思考やコミュニケーションとしての言語活動を学術的に探究する「言語研究」と、日本語を外国語として学ぶ人々への言語教育を異文化間コミュニケーションの考えに基づいて実践する「日本語教育・異文化間コミュニケーション」との二つを教育の柱としています。言語学と日本語教育を結びつけることで、言語、価値観、習慣などの違いを客観的に理解します。その上で、多様性を認め合い、新たな価値観を生み出し、協力してグローバル社会の課題を解決する力を身につけます。

[卒業論文一例]

- コーパスに基づいた句い表現の分析
- 文末表現がもたらす聞き手の印象の変化
- からかい歌からみる方言の地域性
- 言語音の印象(音象徴)の独立性に関する検証
- 教材開発) 中国人留学生向けの飲食店アルバイト用日本語教材の開発



文学部の海外留学プログラム

文学部では、学部の特長領域にひもづいた、独自の海外留学プログラムを設置しています。文学部生は全学のプログラムに加えてこれらの独自プログラムに参加し、多様な文化、社会、そして学問に触れ、異文化についての理解を深めるとともに、学域・専攻での学びを世界と照らし合わせて広げ、深める学習を行います。

文学部独自の海外留学プログラム一覧

プログラム名	国もしくは地域（機関）	実施時期	派遣期間
東アジア現地実習Ⅰ（韓国）	韓国（ソウル、釜山）	夏期休暇期間中	約1週間
東アジア現地実習Ⅰ（中国語圏）	中国（深圳・広州・香港または桂林）	春期休暇期間中	約1週間
海外エリアスタディ実習（マレーシア）	マレーシア	夏期休暇期間中	約10日間
海外エリアスタディ実習（バリ）	インドネシア	夏期休暇期間中	約10日間
東アジア現地実習Ⅱ（韓国）	韓国（高麗大学校）	夏期休暇期間中	約2週間
東アジア現地実習Ⅱ（中国語圏）	中国（桂林、程陽、北京または上海）	夏期休暇期間中	約4週間
海外エリアスタディ実習（イタリア）	イタリア（トリノ大学）	春期休暇期間中	約4週間
海外エリアスタディ実習（オーストラリア）	オーストラリア（サザンクイーンズランド大学）	春期休暇期間中	約4週間
人文学特別研修（マレーシア）	マレーシア・ペナン（Penang Heritage Trust）	春期休暇期間中	約4週間
日本語教育研修 ※1	韓国（祥明大学校）	夏期休暇期間中	約6日間
考古学実習Ⅲ ※2	韓国（韓国伝統文化大学校）	夏期休暇期間中	約10日間
延世大学校グローバル創意融合大学国語国文学科との学生交流プログラム	韓国（延世大学校・未来キャンパス）	春学期もしくは秋学期（あるいは両方）	1学期間もしくは1年間
ディズニー・パレンシア国際カレッジプログラム	アメリカ合衆国（パレンシア大学）	春学期もしくは秋学期	1学期間

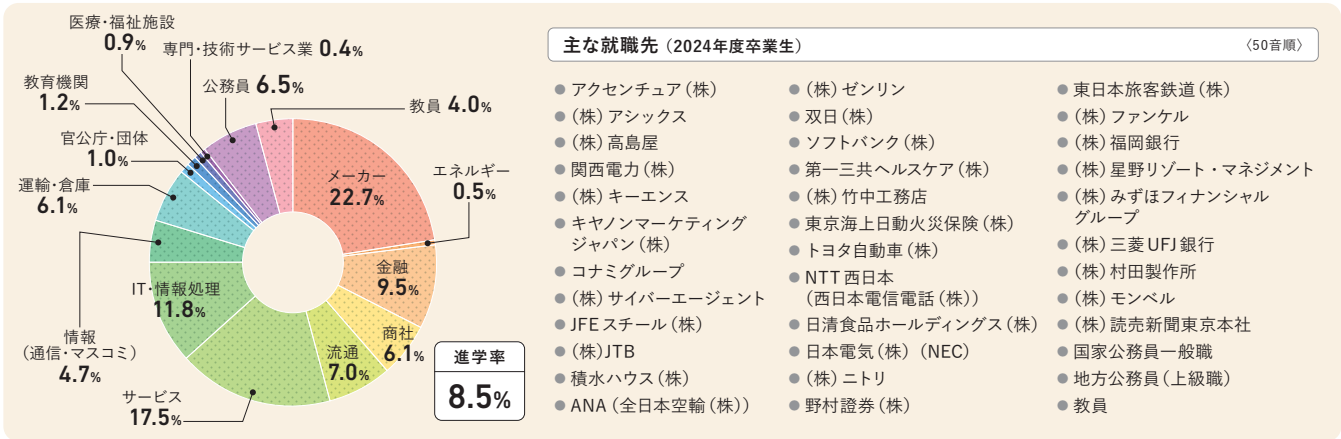
※過去の実績であり、派遣先国・地域を含むプログラム内容や実施時期、派遣期間等が変更になる場合があります。

※1 言語学・日本語教育専攻の学生のみ参加可能 ※2 考古学・文化遺産専攻の学生のみ参加可能

進路・就職・資格

文学部では、多角的かつ総合的な人間理解力を身に付け、社会問題の解決に貢献できる人材を育成しています。その進路は幅広く、民間企業をはじめ、公務員や教員等多様な分野で活躍するほか、大学院でより高度な研究を行う学生も多くいます。キャリア形成や資格取得支援等も展開し、学生の夢をサポートします。

文学部の進路就職状況（2024年度卒業生）



※円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。 ※進学率＝〔進学者／（就職者＋進学者）〕。ただし、進学者には大学院だけでなくその他の進学者を含む。 ※端数処理の関係で100%にならない場合があります。

主な資格課程

文学部では中学・高等学校教員の教職課程のほか、博物館や美術館で働くための学芸員資格や、図書館で働くための図書館司書課程の履修と資格取得が可能です。

教員免許	中学校の国語・英語・社会、高等学校の国語・英語・地理歴史・公民の教職課程を履修することができます。 ※英語については、英米文学専攻、国際コミュニケーション学域（英語圏文化専攻、国際英語専攻）以外に所属する学生は選考による事前許可制です。
学芸員	日本史研究学域の考古学・文化遺産専攻では専門分野と学芸員課程を並行して学ぶことができます。 ※文学部のいずれの専攻でも履修することができます。
図書館司書	日本文学研究学域の日本語情報学専攻では、専門分野と図書館司書課程を並行して学ぶことができます。 ※文学部のいずれの専攻でも履修ができますが、日本語情報学専攻以外に所属する学生は選考による事前許可制です。
その他	● 学校図書館司書教諭 ● 測量士補（地理学専攻） ● GIS 学術士（地域研究学域） ● 地域調査士（地域研究学域）

MESSAGE

今、この時代に「人文学」を学ぶということ

立命館大学文学部長

遠藤 英樹

文学部で学ぶ分野をまとめて表現すると「人文学」（あるいは「人文科学」）ということになるでしょう。立命館大学文学部では、哲学、文学、歴史学、地理学といった伝統的な学問を大切にしつつ、国際化や学際化といった現在の社会の動きに合った取り組みにも積極的に挑戦し、2020年度からは8学域18専攻という極めて多様な学問領域を有しています。まさに「文は広い。文は深い。」のです。そしてそれぞれの専門領域、そしてその広い学問領域の全ての底に共通して流れているのは、「人間の本質とは何かを考える」という根本的な問題提起です。様々な学問の基盤とも言えるべき人文学は決して軽視するべきではない、極めて重要な学問であり、グローバル化が叫ばれる現在、こうした人文学の重要性が何よりも高まっていると思います。

立命館大学文学部は90年を超えるその歴史の中で、人文学における非常に多くの学問領域を擁する日本有数の文学部として、日本のみならず、東アジアを中心に世界的にも注目される存在へと発展してきました。その特徴ある制度として、1回生次には大学教育や各学域の基礎、そして大学での研究の仕方を習得し、2回生から専門の学びにシフトするという、「学域・専攻制」があげられます。また、「京都学コース」「デジタル人文学コース」「英語アドヴァンスト・コース」を設け、横断的に学べる環境を整えています。

さらに、オーストラリア、イタリア、韓国、中国、インドネシア、マレーシアなどでの海外留学プログラムの展開など、人文学教育の国際化を推進してきました。世界の様々な場所で起こっている問題が日本にも波及していることを否応なく感じられることが多い昨今です。未来が不確実なこの時代、国・地域、時代、性別を超えた関係性を問い、価値を相対化する「人文学の知」は、冷静に状況を見極め、判断する力を形成するはずで。だからこそ文学部での4年間を通じて、大いに思考をめぐらせ、学問を探究し、自分の道を切り拓いてください。

[教員紹介]

人間研究学域	12ページ	東アジア研究学域	19ページ	国際コミュニケーション学域	27ページ
日本文学研究学域	14ページ	国際文化学域	21ページ	言語コミュニケーション学域	29ページ
日本史研究学域	17ページ	地域研究学域	24ページ		

人間研究学域



哲学・倫理学専攻

メルロ＝ポンティ存在論における文学の位置づけ

20世紀を代表するフランスの哲学者、モーリス・メルロ＝ポンティ（1908-1961）の哲学を研究しています。彼の哲学は、サルトルやボーヴォワールと並んで、人間を具体的にあり方から探究しようとした。とりわけ、人間を徹底して「身体」的な存在として見る点に、哲学者としての彼の独創性があります。私は、彼が晩年に、芸術や文学の中で哲学に代わる思想を求め、哲学と文学の関係を考え直した点に注目し、哲学的な思考と文学的な表現との深い関係を探ろうと考えています。なにごとかが「在る」と感じる経験と、それがたしかに言葉で言われていると感じる経験の交差点で何が起っているのか、私の研究のテーマはそこにあります。

専門分野

フランス哲学

現代哲学

キーワード

メルロ＝ポンティ

現象学

存在論

文学

フランス哲学



哲学・倫理学専攻

デリダの脱構築思想の解明

心と体、生と死、自己と他者、「同じ」と「違う」などの対立概念を、私たちは日々用いています。西洋哲学において、こうした諸概念は一方が他方を抑圧することで形成されたと現代フランスの哲学者ジャック・デリダは考え、その力関係の揺さぶりを試みたのです。この挑戦が「脱構築」と呼ばれ、20世紀後半の人文学に大きな影響を与えました。私の研究テーマは、デリダの思想を解明することです。彼の思想の成り立ちを明らかにし、その展開を追いかけてながら、時間、他者、歴史、暴力といった諸問題の核心に迫っていくところがこの研究の醍醐味です。

専門分野

現代哲学

フランス現代思想

キーワード

ジャック・デリダ

脱構築

同一性と差異性

自己性と他者性



哲学・倫理学専攻

現代社会の諸問題に対する倫理学的研究

現象学を核にして現代哲学を研究しています。現象学は20世紀以後の世界全体に大きな影響を与えている哲学潮流です。これを基礎に据えて、私は「自然」・「自己（私）」・「他者」という三つの問題の根底に迫ろうとしてきました。しかし、今ではこれらの問題が「間文化性」という問題に発展しています。間文化性というのは、自分の文化と他の文化との関係です。ごく簡単に言えば、私たちは毎日多くの外国人に出会っていますが、それです。私たちは今や文化と文化が衝突し交雑する世界のなかで生きており、同時に、新たな生き方を模索せねばならなくなっています。しかし、誤った道も多いのです。私が取り組んでいるのは、この問題です。

専門分野

倫理学

応用倫理学

政治哲学

キーワード

ロールズ

リベラリズム

生命倫理

スポーツ倫理



哲学・倫理学専攻

思考体系を再設計する

私たちの思考体系は、さまざまな部品の組み合わせでできていて、それらの部品はそれぞれの原理にしたがって動いています。それらのうち、もっとも基礎的で普遍的な原理を「論理法則」と呼びます。論理学はそうした論理法則を明らかにし、分析する学問です。ただし困った（けれどもおもしろい）ことに、個々の論理法則はどれも明快で、どう考えても正しいと思えるのに、それらを適当に組み合わせると、ときに齟齬や矛盾が生じてしまいます。私たちの思考体系に潜むそんなバグやエラーを見つけ出して、それをうまく解消できるように思考体系を再設計すること、これが論理学の重要な仕事のひとつです。

専門分野

論理学・論理哲学

キーワード

論理

思考

言語

パラドクス



哲学・倫理学専攻

現象学の立場から「他者」について考える

私は、ドイツの哲学者エトムント・フッサール（1859–1938）の考案した現象学という方法論を研究しています。そして、この現象学を用いて、「他者」というテーマに取り組んでいます。他者の存在を証明するのは、実はとても難しいことです。私は、自分の心を内側から感じ取るのと同じようにして他者の心の中に入り込むことはできないからです。しかし、私はたしかに他者と出会い、他者が私にとってどうでもいい存在ではないことを、痛いほどに思い知っています。こうした「出会い」や「思い知り」に秘められているものを厳密な言葉で解き明かしてみたくて、哲学の研究をつづけています。

専門分野

近現代のドイツ哲学

現象学

他者論

キーワード

自己

他者

社会



哲学・倫理学専攻

倫理の起源にさかのぼる

倫理と呼ばれる決まりごとはわたしたちの生活のすみずみに浸透していて、ふだんはその成り立ちを意識することも少ないかもしれませんが。けれども、ひとたびその根拠をもとめて「倫理はどこからやってくるのか」を考えはじめると、それがなかなか厄介な、しかし興味の尽きない問いかけであることに気づきます。わたしは「自律」をめぐる現代の倫理学、「想像力」に関する近世ヨーロッパの哲学史、そして「信頼」を主題とする学問諸領域の思考を手がかりとして、倫理の起源を解き明かすことを目指しています。

専門分野

近世ヨーロッパの哲学

倫理学

キーワード

想像力

自律

信頼

人間研究学域



教育人間学専攻

伝承児童文学におけるいのちとたましいの伝え方

日本（アイヌを含む）、東アジア（韓国・中国）、英国スコットランドにおけるフィールドワークに基づいて、子守唄・わらべうた・民間話話などの伝承児童文学における「子どものコスモロジー」の問題、特にいのちやたましいがどのように表現され、子どもたちに伝えられてきたのかを追究しています。そしてまた、これに基づいて、いのちやたましいを今日の子どもたちにどのように語り伝えていけばいいのかについて、保育・教育現場でのうたと語りと紙芝居の実践を通して考究しています。

専門分野

教育人類学

伝承児童文学

キーワード

子守唄

わらべうた

民間話話

子どものコスモロジー

いのち

たましい



教育人間学専攻

心身相関的介入による心の癒しと教育

研究テーマは、心身相関的介入による心の癒しと教育についてです。例えば、カウンセリングでは心の悩みが解決しない人に、気功やヨーガの実践を通して心にアプローチをすると、問題が改善することがあります。言語習得以前の発達初期に問題の原因があるケースでは、言葉を介するカウンセリングよりも、直接身体に働きかけるセラピーのほうが奏功する場合があります。現在は東洋の身体論及び治療論と、新しい心理療法の一つであるTFTのメカニズムの共通点を探りながら、幼少期、さらには誕生以前（胎児期）の問題にも対応できる治療方法の確立を目指しています。

専門分野

心身相関的介入

ボディ・ワーク

キーワード

心身相関的介入

ヨーガ

TFT



教育人間学専攻

「美と教育」という謎

たとえば犬の赤ちゃんは生れた時から犬。猫の赤ちゃんは生れた時から猫。でも人間だけは、教育によって初めて「人間」になる存在です。そのことの不思議さ、おもしろさ、哀しさ、そして難しさを考え、深く感じるのが教育人間学です。そのように人間が「人間になること」にかかわる無限に豊かな出来事の中で、私は特に、美や芸術の体験が人間の生成・形成にとってどのような意味をもつのかを、思想史を手がかりに考えることを研究テーマとしています。ドイツの詩人シラーが「人間の美的教育」について書いた不思議な書簡の解釈史を中心に、思想史の研究をする傍ら、美や芸術を教育の根幹とするシュタイナー学校の実践にも関心をもっています。

専門分野

教育人間学

教育哲学

教育思想史

キーワード

教育

美・芸術

物語

超越



教育人間学専攻

青年期の心の教育の理論的・実践的研究

人生には、これまでの自らの歩みを振り返り、より深く自分を理解し、傷ついてきた自分の心を癒し、新しい自分を創造することが必要な時があります。新たな心の教育を模索する中で学生と共に創り上げてきた体験的教育人間学は、内なる促しに導かれつつ、自らの心と身体を通して体験的に自己の理解・癒し・再生に取り組んでいきます。当然、そのプロセスにはこれまで薄々感じていた認めたくない自分と直面したり、涙が枯れるほど泣いたり、今まで経験したことがないほど強い決断をしたりすることもあります。しかし、他人に依存することなく、自らの責任で取り組む主体的な自己変革こそ、青年期の心の教育の重要な課題であり、新しい研究領域です。

専門分野

教育人間学

心理学

キーワード

体験的教育人間学

インナーチャイルド・メソッド

瞑想と心の教育



教育人間学専攻

「教育」「子ども」「生活世界」「経験」の理解のための臨床教育学的研究

子どもの生活世界にどうアプローチすることができ、またアプローチすべきなのかを方法論的側面から追及しています。例えば子どもの「嘘」や「秘密」は誰もが当たり前知っていることかもしれませんが。ですがその意味を考え出すと、単純にいまいましく思ったり、一方で、ほぼ笑ましく思ったりするだけでは済まない別次元の意味が見えてくることもあります。こうした意味志向の人間学的哲学的アプローチは抽象的考察に終わらずに、わたしたちが当たり前として疑わずにいる教育観を揺さぶり問い直すきっかけになる場合もあるかもしれません。

専門分野

教育人間学

臨床教育学

キーワード

教育言説

解釈学的方法

レトリック

ユーモア

アイロニー



教育人間学専攻

人の自然認識の発達的変容の解明とその教育への応用

子どもは様々な日常経験から、驚くほど豊かな知識を獲得しています。こうした知識は、正しいこともあります。自らの経験に基づく子ども独自の考えなので、授業で扱われる科学的に正しい知識とは矛盾することがよくあります。日常で獲得した知識と授業で教えらる知識が矛盾していると、学習内容の理解が困難になったり、学習意欲が低下したりします。子どもたちが、日常生活を通じてどのような知識を獲得しているか、それは授業やその後の経験によってどのように変化していくのかを明らかにすることで、子どもの目線に立った教育実践が可能になると考えています。

専門分野

教育心理学

発達心理学

キーワード

概念変化

素朴概念

教授・学習

教科教育



「教育という語り」への臨床教育学的アプローチ

人間の生を意味づける行為としての「物語」は、とすれば一義的な意味に固定化しがちな「教育という語り」を解きほぐし、教育に携わる者が生きた教育の意味を紡ぎだしていく上で極めて重要な観点です。「教育問題」を語る言葉が、しばしば個人の内面を表現するという一面的な意味に矮小化されて自閉的・排他的になっている状況を批判的に捉え、教育をめぐる語りを柔軟で豊かな意味生成へとひらくことを志向して、「教育の語り方」に着目した臨床教育学研究を進めています。

専門分野

臨床教育学

教育人間学

キーワード

物語・語り(ナラティブ)

意味生成

他者(性)

ミメシス

ヴァルター・ベンヤミン



文章や物語の理解と熱中

私の専門は認知科学で、心理学と情報科学を中心とした学際的な研究領域です。特に文章理解や物語理解、多義文の理解、比喻理解、小説や物語への熱中状態を中心に研究を進めています。私たちは日々文章を読みますが、どうやって解釈が多様な小説を理解するのか、どのようにして白黒のシミのような文字を読むだけで多様なイメージを構築するのか、文章への熱中状態はどのような認知状態なのかなど、様々な認知が未解明です。私は行動実験、読解時間や生理指標の測定、統計的な分析や数理モデリングを用いてこれらの認知の解明を目指しています。

専門分野

認知科学

キーワード

文章理解

物語理解

熱中

解釈の不定性



フランスと日本における高大接続と学力評価の研究

フランスでは200年以上も、バカロレア試験という、論述式の大学入試を続けてきました。選択肢問題はほとんどなく、論述試験と口述試験が中心です。哲学の試験では、「自由とは障害のないことか」という題で論述するといった問題が出ます。バカロレア試験はどのような評価の考え方に支えられているのか、また、バカロレア試験に向けて、どんな指導や評価をしているのかを研究しています。さらに、日本の学校で、知識を活用して論理的に思考し、表現する力をいかに育み、評価していくべきかを、フランスを鏡としながら探求しています。

専門分野

教育方法学

教育課程論

キーワード

バカロレア試験

高大接続

学力評価

授業研究

日本文学研究学域



広がる『万葉集』の世界

私の専門分野は『万葉集』に関する研究です。ただし、『万葉集』の研究には多彩な研究領域と多くの研究業績があります。その理由は『万葉集』が上代の代表的な文学作品であると同時に、上代の歴史・社会・文化を探る上で必須の資料でもあり、また、研究者・文化人から一般の人々に至るまで、時代を問わず、多くの人々に愛され続けてきた歌集でもあるからです(皆さんも、国語・日本史の教科書や『百人一首』、あるいは万葉歌碑などを通して『万葉集』の歌々に出会ったことがあると思います)。つまり、『万葉集』はあらゆる角度から追求されるべき大きな文学作品であって、私は、その中でも、『万葉集』がどのように読み継がれてきたのかという、享受に関わる諸問題を主に研究しています。

専門分野

日本古典文学

キーワード

万葉集

王朝和歌

歌学

享受



平安朝物語文学の読解と享受史の研究

『源氏物語』は、平安中期に紫式部によって書かれた当初は、女性向けの読み物でした。しかし、ある時点から、読者は専ら男性になりました。鎌倉時代以降の貴族は、当然のように内容をそらんじていて、その知識をもとに和歌を詠んだのです。現在に残る写本のほとんどは、男性によって筆写されています。中世の連歌、近世の俳諧など、およそ日本の文芸で、『源氏物語』の影響を受けないものは存在しません。私は、平安時代物語の精読を基礎としながら、日本の中世・近世におよぶ物語の影響や受容の様相を研究しています。各地の特殊図書館や文庫で調査をし、原資料を分析して考察しています。

専門分野

日本古典文学

文献学

キーワード

物語

注釈

享受

禁裏

公家

連歌師



人文学研究の諸分野を横断して、江戸人の実像に迫る

江戸時代の終わりから明治の初めにかけて、和歌文芸がどのように変容していったか、文学周辺の様々な学問、例えば日本語学・歴史学・美術史・哲学・思想史・文化史等の分野にも目配りをしつつ研究しています。同時期の歌人が詠んだ和歌・著述はもちろんのこと、歌人が所蔵して書入れをした書物、友達の歌人・絵師に宛てた手紙、和歌の賛を着けた掛軸、歌の題材とした舶来の器物、幕末の歌人番付等、ありとあらゆる史資料群を調査することにより、現代の我々とは大きく異なる価値観を有していた江戸の人々の実像に迫ります。江戸の人々の息づかいが聞こえてくればと念じて研究をしているこの頃です。

専門分野

日本近世文学

日本近世文化史

日本思想史

キーワード

国学者

和歌

紀行

幕末の長崎における異文化融合



「明星」派文学の研究(日本の近代文学・近代短歌の研究)

私の研究は明治40年代の石川啄木の評論や詩歌の文学史的・思想史的な位置づけを、与謝野晶子をはじめとする歌人・文学者の作品とともに明らかにすることを目標としています。啄木は、「東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる」など、孤独や望郷をうたった歌人として、近代以降、多くの人に読み継がれてきました。与謝野晶子らの文学雑誌「明星」の浪漫主義から出発し、やがて日露戦争後の文学である自然主義に対する内的な批判者となっていった啄木の、詩歌と散文(評論・小説)というジャンルの垣根を越えた多彩な文学表現は、明治の文学史を理解する上でも重要です。併せて、与謝野晶子の作品などにみられる近代短歌の表現の面白さについて解明します。

専門分野

「明星」派文学

日露戦後の文学

キーワード

近代短歌

「明星」派

石川啄木

与謝野晶子

自然主義文学



明治期から戦後に至る日本文学とナショナリズムの関係

高山樗牛や井上哲次郎によって提起された〈国民文学〉論が戦時下の浅野晃・高倉輝等の議論を経て敗戦後の竹内好や野間宏たちの論争へと展開していった過程を一連のものとして捉え、それらに隣接する〈政治と文学〉論争や〈近代の超克〉論ならびに同時代文学作品との協働連関を検証しながら、日本の近代文学が国家のイデオロギー装置として機能した役割を明らかにする作業に取り組んでいます。また、戦中戦後の国民文学論が止揚を試みたプロレタリア文学運動にも視野を広げ、当時の文学運動に内包されていた組織論や近代化論の問題を研究しています。

専門分野

日本近代文学・文化ナショナリズム

キーワード

政治と文学

国民文学

近代の超克

プロレタリア文学



「京都」イメージの歴史的変遷と現代、本邦中世の禅林文学、中世近世の漢文学

上代以来、明治維新に至るまで、日本は中国に学ぶことで自国の文化を確立してきました。常に中国を見つめながら独自性や美意識を育んできたのです。中国文化受容の窓口は各時代の最先端研究拠点でもありました。なかでも、すべての機能が首都・京都に集中した室町時代、中国文化受容の拠点は五山と呼ばれた禅宗寺院でした。足利幕府と固く結びついた五山は、中国に学ぶことで自身の美意識を培ってきました。私は現在、五山文学や室町水墨を検討しながら、当時の日本や京都の特質を明らかにすることと同時に、当時の京都を通して五山文学の本質を明らかにするという二つの視点で研究を進めています。

専門分野

日本中世文学

日本美術史

京都学

キーワード

中世

禅林

室町水墨

画題

京都



アニメを「読む」

文学研究と映像研究の手法を用いて、アニメーション作品の研究を行っています。例えば、映像にも文章と同じく文法があります。ただなんとなく撮影しただけの動画は、決して「映画」にはなりません。悲しい場面には悲しみを表現する工夫(演出)が必要です。約2時間という限られた上映時間のなかで、観客を作品に引き込むストーリー展開の工夫も必要です。また、「ミュージックビデオのように音楽と映像をシンクロさせるのが得意な監督」のように、監督の文体といったものも存在します。そんなアニメーションの面白さの秘訣を探る。つまり、作品に使われている文法や文体を分析し、監督が作品を通して観客や社会に伝えたかった想い(思想)をあぶり出す。そんな研究を行っています。

専門分野

アニメーション

日本近現代文学

キーワード

アニメ

メディアミックス

表象文化

聖地巡礼



推論過程を明示する言語形式に関する理論的・実証的研究

私が飽きずに続けているテーマは「条件文」です。日本語には英語のifに相当する表現が少なくとも4つ(「と」、「ば」、「たら」、「なら」)あり、なぜ、4つもあるのか、その分化のメカニズムを探っています。これは外国人に日本語を教える日本語教師を悩ませる文法項目の一つとしても注目されています。最近は、地域差にも関心を持ち、特に、九州方言特有の条件形式を調べています。現地でインタビューするたびに日本語の多様性を実感し、そこが面白くて、やめられません。

専門分野

日本語言語学

日本語教育のための日本語文法研究

キーワード

推論過程

空間認知

時間表現

九州方言

気になる日本語



日本語はどのように変化してきたのか

古代（奈良時代）から現代までの文法（歴史的用法・変化）、特に「これ・それ・あれ」といった指示詞や「さて」などの接続詞を中心に研究をしています。さて、普段、何気なく使っている指示詞ですが、「こ・そ・あ」はどのように指し分けているのでしょうか。「そこ」はどこでしょうか。また、古代でも同じように使っていたのでしょうか。このような謎に対し、現代語はフィールドワーク、古代語は歴史コーパスなどを用いて調査し、分析しています。

専門分野

日本語学

歴史的研究

キーワード

日本語

言語学

文法史



コーパス日本語学

国語の授業で和語・漢語・外来語・混種語という語彙の分類（語種）について習ったことがあるでしょう。それでは、現代日本語の語彙の中で和語・漢語・外来語・混種語は、それぞれどのくらいの割合を占めているのでしょうか。最も高い割合を占めている語種はどれでしょうか。また、和語・漢語・外来語・混種語は、日本語の中でそれぞれどのような役割を担っているのでしょうか。こういったことを実際に書かれたり、話されたりした日本語を集めたデータベース（コーパス）を使って明らかにしています。

専門分野

コーパスを活用した日本語の語彙

表記に関する研究

キーワード

日本語学

コーパス

語彙

表記



デジタル情報社会におけるリアルな「場」としての図書館の社会的、教育的意義について考える

デジタル情報社会の中で、一時期は図書館不要論も唱えられましたが、今や公共図書館は地域活性化、まちづくりの中核として活況を呈しています。公共図書館は、静かな読書と勉強の場というイメージを脱却し、出会いと交流の場として、あらゆる人びとの生活と生涯学習を支えています。大学図書館でさえも会話や飲食のできるコモンズやカフェを擁し、学校図書館も生徒の心の居場所、交流の場ともなっています。「場としての図書館」研究は、複層的な機能と空間によって大きく変容する図書館の新たな意義と社会的、教育的価値を学術的に考察する図書館情報学の新しい分野です。なので、私は図書館の新たな可能性を開拓すべく、いつも研究に夢中になっています。

専門分野

図書館情報学

キーワード

場としての図書館

公共空間

第三の場

社会関係資本



誰もが利用しやすい図書館とは

図書館には国立国会図書館、公共図書館（公立図書館・私立図書館）、大学図書館、学校図書館、専門図書館など多様な種類があります。そして、それぞれの図書館によって利用者層や求められる機能も異なります。私が主に研究をしている公立図書館や学校図書館は、「誰もが利用しやすい」とはまだまだ言いにくいことがあります。どうすればより利用しやすい図書館になるのでしょうか。地域の方々や児童生徒・先生方が理想とする図書館はどういったものなのでしょうか。本の貸出にとどまらない、利用者の多様なニーズに応えるために、学びと交流の場として進化をする図書館の未来を考えています。

専門分野

図書館情報学

キーワード

公立図書館

学校図書館

司書

司書教諭



知を創造する「図書館」が社会や教育のイノベーションを促す

皆さんは、図書館を「静かに勉強しないといけない場」「静寂を保って本を読む場」と思っていませんか？私は、大学／公共の図書館を「知の倉庫」から、「知の交流」や「知の創造」の場へと進化させていく実践と研究を行っています。つまり、本や資料を提供する場から、それらを媒介にして人々が交流する場、さらには、本や資料を含む様々な情報資源、道具、空間、他者といった構成要素が効果的に協奏して人々が「知を創造」する場へと変容していく図書館の姿を探究しています。特に、デジタル情報社会に求められるイノベートした図書館の機能や、図書館を舞台とした社会のイノベティブな人材の育成など、「図書館イノベーション」をキーワードに、図書館の社会的・教育的なイノベーションについて日々考えています。まずは皆さん、入学後、大学の図書館に足を運んでください。

専門分野

図書館情報学

人間情報学

キーワード

図書館イノベーション

図書館メディア

知識創造

教育実践開発



日本中世の政治と宗教

日本史のなかで、室町時代はもっとも人気がありません。でも、国内外の観光客が京都を訪れると、金閣や銀閣を拝観し、禅寺の庭園を散策し、お茶や生け花を体験するのが定番です。これらは全て室町時代の建築や発祥です。文化には詳しいのに、この時代の歴史を私たちはよく知りません。当時の京都は貴族だけでなく、武士や僧侶や商人達が一体となって政治・経済・文化を動かしていました。そうした新しい社会がどのように構築されたのかに関心があり、宗教の視点から研究しています。個性豊かな人々が躍動するこの時代を共に学びませんか。

専門分野

日本中世史

日本宗教史

キーワード

祈祷

強訴

宗論

門跡

室町殿



日本近現代政治史・思想史など

人に支配されることが好きな人はあまりいないでしょう（支配されておくのが楽な場合は間々ありますが）。人を支配することが好きな権力欲の強い人はしばしば存在しますが、人を支配することもまた簡単ではありません。簡単ではなく、また多くの人がそれを必ずしも望んでいないにもかかわらず、支配、すなわち「少数の人間に多くの人がつき従っている」状態が成り立っているのは不思議なことです。これを日本近代史の中で解いてみようというのが私の研究の目標です。それは多くの人の顔写真を見るよりも、それ1枚ですべての人の顔を示すモニタージュ写真を作るにも似たような研究です。

専門分野

近代日本の主権論

立憲制

官僚制

政党政治

キーワード

日本近代歴史学の批判的再検討

明治維新

天皇制

大日本帝国憲法

政党内閣制

二大政党制



地域資料をもとにした京都像の変容と住民の歴史意識

日本古代の辺境に住んでいた蝦夷や隼人、琉球人などの実態と観念の検討をするなかで、歴史像に各時代の自他認識がはっきりと反映していることを知り、地域における歴史意識の変遷を研究しています。「雅な平安京」や「町衆の自治」といった通念はいつ生み出され、どのように広まったかを、マンガや紙芝居などから分析し、中・近世の京都三条釜座を基盤にした鋳物師の活躍を「梵鐘」から読み取り、教職員組合や歴史学会の資料をもとに戦後の歴史意識・教育の実態を明らかにするなど、これまで殆ど注目されてこなかった資料から、各時代の京都について検討を進めています。

専門分野

日本史(古代・近現代)

日本史学史

キーワード

辺境と中央

郡部と市部

自他認識

マンガ・紙芝居



近世成立期の国家と社会

戦国時代の日本を国家統合へと導いた豊臣政権は、集権的かつ強権的イメージが強く、従来はその法や政策は社会へ貫徹したと考えられてきました。しかし、豊臣秀吉自身やその政務を補佐する奉行衆（石田三成らいわゆる「五奉行」）の活動を具体的に追っていくと、その意思決定や社会への浸透の過程は実は紆余曲折を経た柔軟性の高いものであったことが浮かび上がってきます。そうした成果を基に、最近では近世国家・社会の成立過程や、近世における京都・京郊地域の位置づけについても考察を進めています。

専門分野

日本近世史

政治史

キーワード

中近世移行期

豊臣政権

近世の成立

京都・京郊地域



芸能の流行が人々にもたらす影響

今様や蹴鞠、猿楽といった芸能はもともと庶民の芸能でした。しかし、それらが流行すると関心を示す貴族や武士が増え、彼らの好みに合わせて芸の中身も変わりました。また、そうした芸能を専門とする芸能者たちが優遇されるようになると、彼らの芸や仕事の方法、組織・集団も変わっていきます。このような芸能の流行が人々にもたらす影響に関心があり、芸能を通じた文化的ネットワーク、身分を超えた交流を可能にする空間や場のしくみ、芸能実践の思想的背景などについて研究しています。芸能の流行と階層間移動に着目することで中世文化を動態的にとらえ、なぜ中世の人々が文化や芸能に熱中したのかを解き明かしたいと思っています。

専門分野

日本中世史

文化史

芸能史

キーワード

新興芸能

芸能者

身分

集団



近代生成期のアイデンティティと意思決定構造

幕末政治が専門ですが、英雄による国家建設の成功譚にはあまり興味がありません。昔からある日本が危機を克服したのではなく、19世紀に近世の〈自己完結の世界〉が近代日本に変貌したのであり、それは単に美しいだけの話でもなかったからです。その時、為政者や庶民は〈他者〉をどう捉え（直し）たのか、また自己をどう位置づけたのか、そして両者が織りなす〈世界〉はいかなる形をとり、国家と人々の意志決定を特徴づけたのか。今の社会にも繋がるこの大問題に、㊦意識の構造（変革期には心のあり様が力をもつ）、㊧徳川政権（幕府、負けた側）の視座（政争の勝者だと自らの特徴を自覚できない）、㊨明治以降の神話化（近代の出発点ゆえ後の時代に脚色が行われる）に注目しつつ追っています。

専門分野

日本近代史

近世近代移行期の思想史・政治文化史

キーワード

世界認識体系

徳川政権

公議

政治参加と動員



東島 誠 教授

日本史学専攻

日本史上の変革期における国家と社会の関係史

歴史学では、根拠（史料）と論理に加え、根拠と根拠の隙間に広がる未知の領域に対し、豊かで謙虚な「想像力」を持つことが重要です。たとえば、幕末の坂本龍馬と南北朝時代の禅僧義堂周信には2つの重要な共通点があり、そこには日本思想史上の隠れた水脈があるのですが、皆さん想像がつきますか？ あるいは古代の行基から近代の内村鑑三にいたる〈挫折〉の歴史とは？ さらに、豊臣秀吉と帝国京都博物館（現・京博）の関係は？ しかも重要なのは、それらが連続と続いているのではなく、ある時代状況の中で、問題が再来する、という点なのです。

専門分野

再－中世化する日本社会〈つながり〉の精神史

キーワード

一揆契約状

歴史災害

芸能興行

排除と包摂

江湖放浪人



水口 幹記 教授

日本史学専攻

日本古代から東アジアを考える

私の研究の要点は、日本古代における文化の受容と選択にあります。たとえば、ある書物が中国から伝来したとします。それは史実ですし、歴史の一側面です。しかし、それが日本社会にとってどのような意味を持ったか、というのは別の問題です。その書物が果たして読まれたのか、読まれたとしたらなぜ読まれたのか、どのように読まれたのか、読まれなかったとしたらなぜ読まれなかったのか、そういった問題を問うことが重要なのです。文化が伝来し、受容し、取捨選択する際の軋轢・ズレこそが、双方の社会の様相をあぶり出し、東アジア文化の共通性と日本古代社会の独自性を明らかにするきっかけになると考えています。

専門分野

日本古代史

東アジア文化史

キーワード

往来する人びと

漢籍受容

〈術数文化〉

感性



岡寺 良 教授

考古学・文化遺産専攻

戦乱の中世を城郭から読み解く

地中に埋没した遺跡（遺構・遺物）などの考古資料は、確かに文字資料（文献史料）には及ばないほど、歴史的事象を表すには多弁ではありません。しかし地中に刻まれた遺跡は歴史的な重要性の多寡に関係なく、歴史的な事実の反映であることに疑いはありません。この点が考古資料における最大の利点であると言えます。こうした物質資料から歴史的な重要性を導き出す学問研究分野が考古学です。日本列島には、3～4万箇所の中世の山城などの城郭遺跡があります。既に文字資料が存在していた時代でも、これらの膨大な数の構造物の比較検討を通していくことで、文字資料だけでは解き明かせない中近世史の解明を目指しています。

専門分野

日本考古学（歴史時代）

キーワード

中近世城館

山岳霊場遺跡

海防遺跡

都城・官衙



長友 朋子 教授

考古学・文化遺産専攻

原始古代の生産体制と交流に関する考古学的研究

弥生から古墳時代には、水稻農耕の普及、王権の成立、古代国家形成過程の解明など、日本の歴史を知るうえで重要な研究テーマが豊富にあります。そのなかでも、私は社会の複雑化する弥生・古墳時代を、器物生産という視点から研究しています。また、土器や木製容器の用途に関連することから、食文化にも関心をもっています。考古学的研究を軸としながら、民族学的調査をおこなったり、共同研究者らと理化学的分析と考古学研究成果を総合化するなど、時には学域を超えて研究を進めるなかで、視野がひらけ疑問の解けたときの喜びはひとしおです。過去の人々の生活の痕跡や墓、そこに残された物から歴史を再構築する楽しさを、ともに感じてみませんか。

専門分野

弥生・古墳時代の考古学

日韓比較と民族考古

キーワード

弥生・古墳時代

器物生産

食文化

民族考古学



中村 豊 教授

考古学・文化遺産専攻

日本列島への人類の出現から、灌漑水田稲作の成立と展開まで

日本列島への人類の出現から、灌漑水田稲作の成立と展開までを専門にしています。とくに興味があるのは、縄文時代から弥生時代への変化について。土器や石器の変化、と生業、集落、儀礼の変化からこれを追いかけています。近年、研究が発展し、縄文時代においても食料の生産（これを「農耕」とよぶかはひとまず置くとして）が行われていることがあきらかになってきました。縄文時代の中ごろにダイズやアズキが作られ、縄文時代の終わり頃にイネ・アワ・キビといった穀物類が大陸から伝わってきました。しかし、これを経ても土偶や石棒といった伝統的儀礼は継続し、集落の形にも大きな変化はみられません。これを大きく変えるのは灌漑水田稲作の成立と展開で、この間の社会・文化の変化を描いていくことを目標にしています。

専門分野

日本考古学（旧石器・縄文時代史）

キーワード

縄文時代

生業

儀礼



新田 和央 准教授

考古学・文化遺産専攻

土器・陶磁器からみた社会と文化

「土器」と聞いて思い浮かべるものは何でしょうか？縄文土器や弥生土器、あるいは古墳時代の土師器や須恵器を思い浮かべるのではないかと思います。実は土器の生産は昭和の中頃まで続き、中世には人々の生活に深く根付いていました。物質資料を研究対象とする考古学には、研究対象とする時代の制約はなく、私は中世の土器を主な研究対象にしています。土器からは当時の人びとと暮らしや往来、文化の広がりなど、文字資料には残らないような、あるいは文字資料を残せなかった人々の様々な情報を引き出すことができます。何より、数百年前を生きた人々が作り、使った土器に触れるという経験は、当時を生きた人々と今を生きる私たちがモノを介して対話するという、他では得難いものとなるはずです。

専門分野

日本考古学（歴史時代）

キーワード

中世土器・陶磁器

都市遺跡



石井 真美子 教授

中国文学・思想専攻

古代兵書の思想・文献的研究

主に『孫子』をはじめとする先秦～漢代の兵書について研究しています。兵書は「戦争を如何に効率的に行うか」を書いた本ですが、『孫子』では当時の戦争被害の実態を踏まえて、「戦争はしないのが最善である」という反戦の姿勢が前提となっています。その上で徹底的な現実主義の立場で戦を説き、後世に多大な影響を与えました。最近は、虚妄を禁じた『孫子』とは真逆の、「兵陰陽」という古代の迷信やまじないを使った戦術についても研究しているのですが、天文や陰陽五行思想当時の科学技術の発展や人間の心理などが垣間見えて面白いです。

専門分野

中国文学

中国思想

キーワード

兵書

孫子

出土文献

銀雀山漢墓竹簡

兵陰陽



尾崎 順一郎 教授

中国文学・思想専攻

中国近世の学術と思想

中学生の頃、クラスの中で『三国志』が大流行。そんな小さなきっかけから、僕は次第に中国の古典に興味を抱き始め、大学に入ったら本格的に中国の古典を学んでみたいと思うようになりました。当初は春秋戦国時代や三国時代に興味がありましたが、大学入学の前年、清代にイギリスに割譲された香港が中国に返還されるというニュースが大大的に報じられ、それ以来、清代という時代に興味を持つようになりました。現在は清朝の成立前後から全盛期にかけての学術・思想について研究をしています。研究対象によっては、国内外で数点もしくは一点しか存在しない資料もあり、各地の図書館を訪ねるのは宝探しをしているようでワクワク感が止まりません。

専門分野

中国近世思想

儒学史

キーワード

清代

経学

考证学

朱子学



靳 春雨 准教授

中国文学・思想専攻

中国の詞と日本の詞

中国文学・思想専修は、橋本循・白川静両先生以来の伝統を受け継ぎ、中国文学研究において優れた実績を有しています。各分野の知識を習得することはもちろん、専修では様々な学会、研究会や読書会を開き、研究発表・意見交換を行うとともに、参加者の相互交流もできます。また研究成果を発表する場にも恵まれています。視野を広げるため、新知見を得るため、積極的に授業や学会に参加していきましょう。

専門分野

中国の詞

詞文献

日本の詞学

キーワード

宋詞

日本の詞

詞文献



井上 充幸 教授

東洋史学専攻

中国近世文化史・社会史

中国の近世、それも明清時代といっても、皆さんはあまりピンとこないと思います。ですが『西遊記』や『三国志』などの物語をはじめ、私たちが「いかにも中国らしい」と感じる伝統文化や、中国人特有の思考方法・行動様式が生み出されたのは、まさにこの時代だったのです。私は、そうした時代そのものの面白さを伝えていきたいと思っています。また、中国の環境問題にも関心をもっています。現在、中国の内陸部は、砂漠化の危機に見舞われていますが、それはいつ、どうして起こったのでしょうか？ 私は、さまざまな史料と現地調査を通じて、水資源をめぐる人と環境との関わりの歴史を解明し、現在の問題解決に役立てたいと願っています。

専門分野

中国近世の文化史・社会史・環境史

キーワード

文人趣味

書画骨董

シルクロード

水資源



鷹取 祐司 教授

東洋史学専攻

出土文字資料を用いた秦漢時代の法律・制度の研究

木簡などの出土文字資料からは、文献史料からは伺えない歴史の一面を知ることができます。例えば、長城遺跡から出土した木簡の中には、長城警備のための内地からはるばるやって来た農民兵士が、長城付近の町に住む民間人に衣類をかけ売りましたのでその代金を回収してほしいと長城警備司令部に依頼したものがあります。司令部ではその依頼をまとめて、買い手の住む町の長官に代金の回収を命令しています。このことから、長城警備に徴発された農民兵士は長城警備の役割を果たすだけではなく、内地から衣類などを長城地帯まで運んできてそこに住む民間人に売ることで、物資の乏しい辺境地帯への物資供給を担ってもいたということが明らかになりました。

専門分野

中国古代史

簡牘学

キーワード

秦漢時代

木簡

長城警備

律令

文書行政



松本 保宣 教授

東洋史学専攻

中国唐王朝の政治を宮殿の構造・機能を中心に解明

唐王朝の政治システムと権力構造。魏晋南北朝は、三国時代から始まる英雄の時代といえます。軍事・政略に秀でたカリスマ的皇帝の登場と死去により、国土は統合と分裂を繰り返し、短命な王朝の興亡が相次ぎました。6世紀以降全土を統一した隋唐王朝もその余韻が色濃く残っており、隋の煬帝・唐の太宗・則天武后など、個性の強すぎる面々が権力闘争の限りを尽くしました。しかし、唐王朝も半ばごろから、秀でた指導者に頼る政治から、制度を固めることにより安定した国家を維持する方向へ変質していきます。現在の私の課題は皇帝の御前会議を舞台に、そこで演じられた皇帝・宰相・官僚・宦官達による生々しいやりとりを解明することにあります。

専門分野

唐代政治制度史

都城史

キーワード

唐代の宮廷政治

皇帝と官僚

宮殿の構造

宦官

軍隊



庵道 由香 教授

植民地支配と戦争動員

「人が人を支配する」という暴力が最も鮮明に「制度」として表れるのが、近代の植民地支配です。明治維新のあと、日本が近代国家として国際社会に出た陰には、朝鮮や台湾などの植民地支配がありました。しかし、何千万という人を植民地支配することは、それほど簡単なことではありません。どのような制度をつくり、どのような政策を実施したのか。その時、朝鮮の人々はどのように対応したのか。その結果、朝鮮社会はどのように変わっていったのか。当時の史料や証言を分析すると、思わぬ事実や構造が浮かび上がってきます。こうした客観的な分析を通じて、日本と韓国・朝鮮の間で未だに課題となっている植民地支配の問題解決を目指します。

専門分野 朝鮮近現代史 国際関係史 キーワード 朝鮮 植民地 総動員体制 歴史清算問題



上野 隆三 教授

中国文学

イタリア南部の都市ナポリ。「フニクリ・フニクラ」でおなじみのヴェスヴィオ火山を望む海沿いの図書館で、私は古い中国書『易経』（儒教の経典とされる、占いに関する本）を閲覧していました。すると、その『易経』の中に2枚の紙がはさまっているのを発見しました。その紙はなんと中国時代の小説『水滸伝』をちぎったものでした。さてこの『水滸伝』の切れ端は何故、どうやってナポリまでやってきたのか。その背景には当時の公務員試験である科举制度が関係しています。さらには、フランシスコ・ザビエルのように、当時アジアで布教活動を行っていた欧州のキリスト教宣教師たちも関係した可能性があります。このようなことを考えるのが私の最近の研究です。

専門分野 明清代の白話小説 キーワード 三国志演義 水滸伝 三侠五義 中国映画



金津 日出美 教授

帝国日本と漢医学の歴史的展開、帝国日本における人的移動と貧困・病・死

日本の近代は、台湾・朝鮮等の植民地を抱え込んだ帝国として存在しました。それは〈政治的空間〉であっただけでなく、そこで生きた人びとの〈生活的空間〉でもありました。さまざまな笑い、泣き、喜び、哀しみを抱えながら生を営み、そして死を迎えた空間でした。私の研究は、そこで繰り広げられた人びとの生と死、とくに貧困・抑圧・病いに喘ぎ、斃れた人びとにどのような医療や救済が行われたのかを歴史的に明らかにしていくことです。それは過去のことではなく、現代社会が抱える困難にも通底しています。それらに対処し、未来を構想していく糸口をともに考えてみませんか？

専門分野 日本近代史 東アジア文化交流史 キーワード 帝国医療・医学 近代漢医学 在朝日本人社会 帝国日本のジェンダー秩序

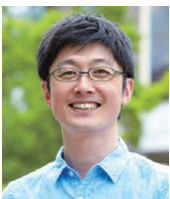


佐々 充昭 教授

朝鮮近現代における「宗教」概念の受容とナショナリズム創成に関する研究

私は韓国近現代の宗教に関する研究を行っています。2005年に韓国政府が行った調査では、国民の半数以上である53%が「特定の宗教を持っている」と答えました。また、韓国が「宗教に熱い国」であることは、最近の韓流ドラマの中で主人公の信じる宗教やその信者仲間たちが、ストーリー展開の中で重要な役割を果たしていることからわかります。私は、韓国での多年にわたるフィールドワークを通じて、特に韓国自生の新宗教、さらには個人主義文化の発展とともに登場してきた新種の霊性運動に関する研究を行っています。また、韓国の若者文化やB級グルメに関する体験的実践は、韓国での現地調査を牽引してくれる最も大きな原動力になっています。

専門分野 宗教学 朝鮮近代史 キーワード 朝鮮の民族・風習・民間信仰 植民地期朝鮮における新宗教 現代韓国の宗教と文化 「韓流」コンテンツ（映画・ドラマ）の解析 東アジアのグローバル化とナショナリズム



三須 祐介 教授

伝統劇から見る中国の近代、セクシュアル・マイノリティの文学と文化

20世紀前半の中国は、最後の封建王朝である清朝が終わり、近代のうねりのなかにありました。この時代に庶民に寄り添った文化のひとつに伝統劇があります。「伝統」というと古めかしいイメージですが、実は当時最新のメディアである映画や近代劇の影響も受けたポップカルチャーとしての側面も強いのです。このような大衆文化から近代とは何かについて考えています。同性愛者などの性的少数者（LGBT）をテーマとした戦後台湾文学も研究しています。日本の植民地であった台湾ですが、戦後も長い間、厳しい政治的抑圧のなかに置かれていました。社会の周縁にあった性的少数者が文学のなかでどのように表現されてきたのかを考えています。

専門分野 近現代中国演劇 台湾文学 キーワード 伝統劇（戯曲）の近代化 上海と租界文化 「同志（LGBT）」文学 周縁性



宮内 肇 教授

中国南方に住む人々の行動様式に関する歴史学的考察

近代以降の中国では、革命・戦争・社会主義を経験してきましたが、その時々指導者は、いかに「国民」を創生し、国家を建設するかを考えてきました。そしてそれは確かに中国社会を大きく変化させてきました。しかし、基層社会に生きる農民などの「ふつうの人々」の生活規範や行動様式はそう簡単に変わるものなのだろうか、そんな疑問を明らかにすることが私の関心です。具体的には中国南方の華南地域を考察対象に、当時の新聞や雑誌・民間文書などを利用し、近現代の中国を生きた「ふつうの人々」が、政府の政策をどのように受け入れ、あるいは反発したのかについて考えています。

専門分野 中国近現代史 中国社会史 キーワード 中国農村社会 血縁と地縁 伝統と近代 広東・香港



金山 亮太 教授

ヴィクトリア朝におけるイングリッシュネスの成立過程

英国史上、女王の治世の時期（エリザベス朝、ヴィクトリア朝、現代）には国が栄えると言われますが、輝きの裏には必ず影が存在します。科学技術の暴走や民族間の対立、帝国主義の負の遺産など、現代に生きる私たちが直面している諸問題の多くはヴィクトリア朝にその端緒があります。これらを時間と空間を超えた普遍的な課題として捉えるのが私の目下の課題です。最近、19世紀末にイギリスで一世を風靡した「サヴォイ・オペラ」という大衆向け喜劇の中に現れる、民族意識の変遷を切り口に研究を進めています。

専門分野 19世紀イギリス小説 軽歌劇を含む大衆演劇 キーワード チャールズ・ディケンズ イングリッシュネス サヴォイ・オペラ メロドラマ ヴィクトリアニズム



竹村 はるみ 教授

エリザベス朝文学と出版文化

私は、近代初期のイギリス文学・文化を研究しています。特に、カリスマ的な人気を誇ったエリザベス一世が統治した16世紀後半は、シェイクスピアをはじめとする優れた文人を輩出し、イギリス文学のルネサンス期として重要な一時期を画しました。近代の戸口で政治・宗教・社会構造をめぐる価値観が混沌とした様相を呈する一方、大衆劇場や出版文化などの新手法のメディアの出現により創造的エネルギーが充溢した興味深い時代です。私は目下、当時のイングランド社会を『妖精の女王』という壮大な叙事詩に描いた詩人エドモンド・スペンサーと、パトロン、印刷業者、同輩詩人など彼が関わった様々な文学・知的コミュニティに関する研究を進めています。

専門分野 イギリス文学 近代初期イギリス文化史 キーワード ウィリアム・シェイクスピア エドモンド・スペンサー エリザベス一世 騎士道ロマンス 出版文化史



PRESTON
NATHANIEL H
教授

Cross-cultural Encounters in Literature

America has been from its beginning a country in which many cultures mix , combine and collide. My research on American literature has exploredhow South Asian thought and religion have influenced some 19th and 20th century American novelists. This kind of interest is somewhat different from the Orientalism that has dominated the East-West encounter. Some American writers have imaginatively participated in South Asian religious forms, and while their visions are not necessarily true or accurate, they are noteworthy as an attempt to transcend cultural boundaries and find a personal meaning in a personal culture. These moments of openness become especially meaningful today, as cultural difference often leads to violence and estrangement between individuals or even whole nations. In pursuing research projects like these , I hope to discover how literature can provide a medium for more creative and constructive dialogue between cultures.

専門分野 American Literature Japanese Literature キーワード American Literature Japanese Literature Indian Thought Translation



杉村 篤志 准教授

アメリカ小説の大衆性と国境横断的想像力

19世紀を中心とするアメリカ小説と大衆文化を研究しています。研究テーマについては、自伝的虚構、テキスト生成過程、ユーモア、先住民表象、おてんば・バッドボーイ表象、共感的同一化、可傷性などの問題系や、ポピュラー音楽史、文学テキストの映画翻案、日本における米文学・文化受容史などに関心をもっています。主要な研究対象は、エドガー・アラン・ポー、マーク・トウェイン、ルイザ・メイ・オルコット、セアラ・オーン・ジュエット、ジャック・ケルアック、フラナリー・オコナーなどの作品です。

専門分野 アメリカ文学・文化 キーワード マーク・トウェイン 人種 ジェンダー ポピュラーカルチャー



中村 仁美 准教授

20世紀前半のアイランド文学（おもに詩と小説）

好きな作家の故郷だからという（やや不純な）動機で留学したアイランドで、土地や場所、そしてそこに根ざす人々の記憶表象としての文学の力に魅かれました。ある詩人は「偏狭にこそ普遍は宿る」と言いましたが、私の研究では、「偏狭」を「辺境」と言い換えることもできるかもしれません。アイランドが独立と南北分割を経験した20世紀前半、北部には自らの「場」に様々な想いを馳せ、作品に昇華させた作家たちがいました。出自や宗派の異なる人々の共生と、境界をめぐるドラマを描いた作品に、今日の世界にも繋がる何かを感じて研究を進めています。

専門分野 アイランド文学 北アイランド文学 キーワード アイランド文学 北アイランド文学 南北分割 国境 文学と場所



小澤 一郎 教授

ヨーロッパ・イスラム史専攻

軍事から捉え直す近代

一般に「近代」と呼ばれる19世紀から20世紀初頭までの時期に、アジア・アフリカ諸地域で試みられた国家や社会を作り替えるための改革は、往々にして欧米諸国をモデルとする「西洋化」といったような言葉で言い表されます。私の専攻しているイランでもこの時期に軍事面での改革が行われましたが、それは「西洋化」の尺度で見ると「失敗」と評価されかねないようなものでした。ただ、改革の内実を現地の国家や社会のありようと絡めて検討すると、一概にそうとも言い切れない固有の歴史的意味を持っていたことがわかります。このように、単一の尺度では捉えきれない各地域の固有な近代のあり方を想定することで、その延長線上にある現代世界の理解をも刷新することを目指しています。

専門分野 近代西アジア軍事史 キーワード 近代 軍事 イラン

ヨーロッパ・イスラーム史専攻



小林 功 教授

6-10世紀のビザンツ帝国と地中海世界

わたくしはビザンツ（東ローマ）帝国の歴史について研究を行っています。ビザンツ帝国は世界史の教科書ではほんの少ししかふれられない国家です。また今はもはやない国家でもあります。なので、あまり大きな意義のない国家と思っている人もいるかも知れません。実際わたくしも昔、「もう滅んでしまった国家のことを調べて何の意味があるの?」と聞かれたことがあります。しかし、中世にはビザンツ帝国こそがヨーロッパの中心でした。現在のヨーロッパの文化の多くも、そしてヨーロッパで起きる国際紛争のいくつかは、ビザンツ帝国やその周囲との関係に起源・原因があります。滅んだ国家ではありますが、研究する意義にも富んだ、魅力的な国家なのです。

専門分野

ビザンツ帝国史

西洋史学

キーワード

ビザンツ帝国

地中海世界

古代末期

ギリシア

ヨーロッパ・イスラーム史専攻



馬場 多聞 教授

中世イスラーム世界史

中世イスラーム世界は、今日のように国境に区切られていない陸と海を様々な人々や物が移動することで、幾度もの変容を経験しました。そうしたなかでもアラビア半島南西部に興ったラスूल朝では、インド洋周縁部で生産される種々の産物が行き交うとともに、北方や東アフリカ出身の人々やイエメン出身の人々が社会を構成していたことが知られています。さらにはイエメンを出奔して、インド洋をわたる人々も見られました。こうした人々や物の移動が往時の世界に与えた影響を探り、現代の世界を考え直すことを意図して、研究を進めています。

専門分野

移動と変容

キーワード

ラスूल朝

アラビア半島

インド洋

紅海

移動性

ヨーロッパ・イスラーム史専攻



森永 貴子 教授

帝政ロシアのユーラシア商業およびロシア・アメリカ会社史

専門はロシア社会経済史です。ソ連があった頃のロシア史研究は工業資本研究が中心でしたが、現在は歴史の見直しが進み、経済の担い手としての商人・企業家やその文化への関心が高まっています。ロシア・アメリカ会社は毛皮商人の活動の高まりの結果設立されたもので、その経営史はロシアの北太平洋進出史、近世日本の対外関係史と重なります。また主な取引商品である毛皮、茶は世界商品としてヨーロッパ諸国のアジア貿易にも深く関係していました。こうした近世・近代の国際商業史を軸に、ロシアと周辺諸国の流通を解明することで、ヒト・モノ・情報（文化）が伝播していくダイナミズムを知ることができるのが私の研究の醍醐味です。

専門分野

ロシア社会経済史

国際商業史

キーワード

毛皮

茶

ユーラシア

北太平洋

近代経済

ヨーロッパ・イスラーム史専攻



能勢 和宏 准教授

欧州統合という「実験」

ヨーロッパは現在EU（欧州連合）のもとで、わたしたちの常識とは異なる世界を構築しているように見えます。通貨は統一され、国境は存在意義を大きく失い、また近年はカーボンニュートラルの実現に向けた野心的なプロジェクトをスタートさせました。なぜヨーロッパはこうした欧州統合と呼ばれる企てを成功させたのでしょうか。また欧州統合は本当に世界を変えたのでしょうか。歴史学という学問を用いて、一歩下がった視点から欧州統合を眺めることで、この壮大な「実験」の行く末について考察しています。

専門分野

西洋近現代史

キーワード

フランス

欧州統合

国際関係

文化芸術専攻



上田 高弘 教授

モダン・アートの批評史的研究と批評実践

モダン・アートと書くと、皆さんはどんな作品を思い浮かべますか？ピカソやゴッホは有名ですが、実際に美術館に足を運んでみると、絵具を画布にぶちまけたり、市販の便器に署名をしたりと、「美術」の定義を混乱させる作品が溢れています。そうした事物や行為を「作品」として映じさせるものを広く「批評」と呼んでみると、モダン・アートの歴史それ自体が批評史の様相を呈してきます。この研究の面白さに学生時代に開眼したのですが、私は欲張りなので、みずから批評を書き、同時代の美術にも深く関わる道を選びました。いえ、扱う対象は音楽などの諸芸術にも広がり、ゆえに研究も授業も、さまざまな具体的作品との出会いに満たされています。

専門分野

美術批評

芸術学

キーワード

美学

西洋美術史

モダン・アート

フォーマリズム

比較芸術

文化芸術専攻



唐澤 靖彦 教授

近代日本の沿岸要塞築城

軍事史のなかでも、要塞築城が専門。特に、明治初期から日清・日露戦争にかけて築造された、洋式砲台・堡壘と附属建設物の研究です。東京湾や大阪湾や軍港を敵艦隊によって火の海にされないため、予算不足に苛まれながらも築かれたそれらは、様式美と機能美が一致した、赤レンガや石等を主な材料とする素晴らしい建造物です。しかし、明治の先人たちによる国土防衛の技術の結晶は現在、よくて草木の繁茂の中で崩落していき、ひどいものは完全に壊され、忘れ去られようとしています。貴重な歴史的遺跡が消え去ってしまうとの想いから、紀淡海峡の島々から舞鶴、呉、佐世保、台湾の基隆、東京湾沖、そして対馬の山の中で泥だらけになってます。

専門分野

軍事史(要塞築城史)

軍事建築の比較史

キーワード

要塞

築城学

工兵

砲兵

間諜

文化芸術専攻



國司 航佑 教授

魂の記録として文学／哲学を読む

私はこれまで、近現代のイタリアの文学と哲学、とりわけ十九世紀の詩人ジャコモ・レオバルディと、二十世紀の哲学者ベネデット・クローチェの二名を主な研究対象としてきました。ですが、彼らの研究に飽き足らず、中世イタリアの詩人ダンテから、二十世紀ドイツの文献学者アウエルバッハまで、時代も国籍もさまざまな作家に手を出したこともありました。共通しているのは、ヨーロッパの言語を用いて執筆された作品を分析し、そこに作者の魂の記録を見出そうと試みたことでしょうか。言語も時代も何もかもが違う環境で生み出された作品を本当の意味で理解するのはまったくもって困難な作業ですが、それが少しでも達成されたと感じられる瞬間、何とも言えない感動を味わうことができます。

専門分野

ヨーロッパ(特にイタリア)の文学と哲学

キーワード

哲学

詩

イタリア語

文化芸術専攻



崎山 政毅 教授

ラテンアメリカの近現代の思想形成と文化変容

僕の研究は「ラテンアメリカ思想史」を取り扱っています。ときにはチェ・ゲバラのような革命家、ときにはカルロス・フエンテス（メキシコ）やホルヘ・ルイス・ボルヘス（アルゼンチン）のような詩人・作家、ときにはふつうの人びとが生活のなかで感じ取る自由や平等、公正・不公正の感覚、そしてときには先住民族の宇宙観までの広い領域が研究対象です。ですから、理論や本から得られるものに研究は限定されません。人類学や農村社会学のフィールドワークのような調査からわかるものごとを、理論や歴史資料の分析と繋ぎ合わせて受け止め、考察し、できるならば現地に投げ返す。これが僕の研究のもっとも大切な、そしてもっとも面白いところです。

専門分野

ラテンアメリカ思想史

地域研究

キーワード

ラテンアメリカ

ポスト植民地主義

先住民族

社会思想

文化芸術専攻



須藤 直人 教授

太平洋諸島の比較文学・文化

南太平洋の島々と海の世界を、日本との関連で考える文学・文化研究をしています。どの世界も「相手にどう見られるか」「相手をどう見るか」というアイデンティティ・ゲームの中で、都合の良い「私たち」「よそ者」を作り出してきました。西洋諸国が世界中を植民地化したことで、ゲームは世界規模のものとなり、世界の様々な事柄がつながり、反発し合いながら混ざり合うこととなりました。植民地の時代の後、その「つながり」は時に見えにくくなり、常に変化してはいますが、この世界共通のゲームは終わっていません。見えにくく、変化する「つながり」を、南太平洋の大海原をただよいながら、頭と足を使って見つけ出すのが面白いところです。

専門分野

比較文学・文化

ポストコロニアル文学

キーワード

南洋

南島

太平洋

オセアニア

ポストコロニアル

文化芸術専攻



長澤 麻子 教授

近現代ドイツ思想

現代社会を形成する「近代化」は、寛容や平等の精神をとねえた17・18世紀ヨーロッパの啓蒙主義に始まります。しかし、世界の紛争や虐殺は今なおやむことを知りません。とりわけ20世紀ヨーロッパでは、ナショナリズムの台頭に伴い、反ユダヤ主義が強まり、ナチズムのホロコーストにまでいたりました。なぜ啓蒙の精神から、このようなことが起こったのでしょうか。現在の私の研究は、ドイツの近代化過程において失われていったもの、および、獲得されていたもののなかに、ユダヤ人が排斥された社会的・思想的要因を、20世紀初頭のドイツでエッセイストおよびジャーナリストとして活躍したヴァルター・ベンヤミンの思想から解明することです。

専門分野

ドイツ現代思想

ドイツ語圏言語文化

キーワード

近代

芸術

歴史

ユダヤ

言語

文化芸術専攻



西林 孝浩 教授

東洋美術における地域性と普遍性

仏教美術史および日本・東洋美術史が専門です。仏教美術には、日本の美術のみならず、シルクロードを通じて、さまざまな地域の文化・芸術を吸収しつつ発展してきた経緯を読み解いてゆく面白さがあります。京都という恵まれた環境を活かして、皆さんも是非その面白さを味わって欲しいと思います。また最近では、日本美術史でマンガやアニメーションも扱われ、日本という枠組みの中で、その特異性や面白さについて説明されることが多いのですが、欧米を含む様々な地域の文化や芸術との関わりも密接だと思います。文化芸術専攻として、様々な地域の文化や芸術を参照しつつ、これからの日本・東洋美術について考えることも、私の重要なテーマです。

専門分野

仏教美術史

日本・東洋美術史

キーワード

仏教美術

日本美術史

東洋美術史

美術史の中のマンガ・アニメーション

文化芸術専攻



宮本 直美 教授

ドイツ近代の市民社会と音楽

私はクラシック音楽と社会の関係を研究していますが、根本的な問題意識は、ある文化に対して人々が「高尚だ」とか「低俗だ」といかたちで日常的に持っている価値観がどのように形成されているのか、ということです。多くの人にとってクラシック音楽は、敷居が高いものと感じられるかもしれませんが、なぜそう感じられるのでしょうか。これは、音楽だけに言えることではありません。以前は「くだらないもの」と思われていたまんがは、現在では、日本が世界に誇る文化として注目されています。まんがに対する価値観が変化したのはなぜでしょうか。文化の様々な領域に潜んでいるこのような価値意識を探ることに、私は関心を持っています。

専門分野

音楽社会学

文化社会学

キーワード

教養市民層

ナショナル・アイデンティティ

文化政策

キャンゾン



戦後アメリカの音楽理論史およびサウンド・アートの研究

楽曲を創作・演奏し、それを聴取するだけが音楽文化ではありません。多くの人が音楽について語り・考えることで、音楽文化はより豊かなものになってきました。私の研究では、アーティストや研究者が残した著述を検証し、彼ら／彼女らが考えていたことについて考察すると共に、音楽文化の拡がりを描き出すことを目的としています。特に、音楽理論と他の研究分野との関係やサウンド・アートと呼ばれる音楽と美術のはざまにあるジャンル、言い換えると、二つの分野が出会う境界領域に着目して研究を進めています。そのような領域は、しばしば異なる考え方がときに共鳴し、ときに反発し合いながら、新たな考え方が創り出されていく現場でもあります。他にも、音楽関連資料のアーカイヴ構築やデジタル音楽学に関心を持っています。

専門分野

音楽学

サウンド・スタディーズ

キーワード

レナード・マイヤー

音楽理論史

サウンド・アート

領域横断性



フランス文学、特に17世紀のフランス演劇

私の研究対象は、コルネイユ、ラシーヌ、モリエールに代表されるフランス17世紀演劇です。この演劇はルネサンス期に復興したギリシア・ローマの古典に範を仰ぎ、イタリアやスペインの文学を模倣しながら成立しました。この成立過程を調べると、17世紀演劇がさまざまな文化や芸術の交点であったという事実が浮かび上がります。分かったつもりだった対象が、研究が進むにつれて、思いがけない姿を現す。そのささやかな発見もさることながら、数百年前の異国の演劇を曲がりなりにも再構成できるということの不思議な魅力に、今も引きつけられています。

専門分野

フランス文学演劇

キーワード

フランス

文学

演劇

修辞学（レトリック）



料理することを考え尽くす

私は現代料理という前衛的なスタイルの料理について文化人類学の観点から研究しています。これまで、ペルーと日本の現代料理レストランで料理人として働くことによってフィールドワークを行いました。その上で、現場の詳細をただ報告するだけでなく、調査データをもとに、料理とはどのような行為か、創造はいかに可能となるか、おいしさとは何か、料理にグローバリゼーションはどのように現れるか、といった問いに取り組んできました。料理という実践について考え尽くすことを通じて、既存の料理にかんする理解を書き換える挑戦を、みなさんとともに進めていきたいと考えています。

専門分野

文化人類学

キーワード

料理

芸術

文化人類学

地域研究学域



周縁からの都市論、京都の花街研究

都市には「盛り場」や「繁華街」、また時に淫靡な雰囲気漂う「歓楽街」、くわえて貧困現象の発現する裏町や場末が、必ず存在しています。それらは総じて中心部から少し外れた場所、あまり人目につかない周縁部に位置することが多く、学問のなかで正面から取り上げられることも多いとはいえません。しかしながら、そうした場所にこそ、都市の成り立ち、そして〈都市〉とはそもそも何か、という問いを解く鍵が隠されていることもあります。特異かつ多様な周縁性から都市を考察すること、それがわたしの研究テーマです。現在は、主として京都を含む全国の花街、そして戦後沖縄の都市形成について、フィールドワークを中心に調査・研究しています。

専門分野

都市論

沖縄研究

キーワード

都市

花街

歓楽街

京都・沖縄

フィールドワーク



近代京都の都市景観変遷・京都の人々の記憶に関する研究

人と自然とはどのような関係を持ってきたのかという疑問から、歴史地理学の手法にGISを活用しつつ、過去の景観復原とその変遷を捉えることで、環境と人間との関係史・開発の歴史を検討してきました。近年は、政治や政策ではなく、そこに暮らす人の立場からみた京都の景観変化に注目しています。また、デジタル人文学という新しい学問分野にも関心をもち、既存の歴史観や社会観を踏まえつつも、そこにとらわれない視点をもつことを考えています。京都という場を中心とすることで、その場に絡む問題に関わる多様な分野が学際的な研究を目指しています。

専門分野

歴史地理学

環境史

キーワード

都市

記憶

歴史GIS

歴史災害

近代京都



都市の内部構造に関する地理学的研究

私の専門は人文地理学、特に都市地理学と呼ばれる分野です。なかでも、現代都市の都心部を占有しているオフィスの立地と都市構造の関係について研究しています。鉄鋼業の企業城下町で育った私は、幼い頃の活気ある街の姿が脳裏に焼きついていました。しかし、オイルショックなどを契機に街は徐々に衰退していきました。こうした幼少期の経験が、都市の活力や人口の吸引力とは何かという問題に取り組み現在の研究につながっています。日本における現代都市の活力は、モノづくりに支えられたサービス産業やオフィス業務にあるといえるでしょう。ダイナミックに変化を続ける有機体のような「都市」を、地理学的に分析する面白さは私を惹きつけて離しません。

専門分野

人文地理学

都市地理学

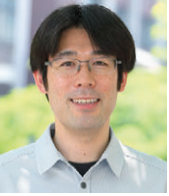
キーワード

都市

都市構造

オフィス立地

経済的中枢管理機能



ビッグデータでみる家族と暮らしの地理学

私たちの生活スタイルや価値観、趣味等は、ユニークなものであったり、逆に、友人と似ている部分があったりします。私の研究では、一人一人を区別できるデータを精査しながら、私たち自身や私たちの地域社会がもつ共通点や相違点、その地域差をもたらす要因を定量的に明らかにしています。具体的研究テーマは、アメリカに暮らす日本人特有の働き方や家族関係、国際結婚夫婦の出生行動、さらには東日本大震災からの暮らしの復興や人口移動に関する空間分析です。最近では、フィリピンや東ヨーロッパを対象に、フィールドワークとビッグデータを連携させた新たな研究も進めています。

専門分野

人文地理学

地理情報システム

キーワード

地理情報システム

ビッグデータ

人口分析

災害復興



持続可能な社会のための防災と環境保全に関する地理学的研究

私は「環境」「防災」「地理」をキーワードに、持続可能な社会のあり方を研究しています。具体的に、①生態系や景観、文化遺産のような環境・文化財の価値評価をその保全に対する人間の選好に基づいてモデル化する研究、②災害に対するレジリエントな社会の構築のために有用な在来知（e.g.災害履歴、災害地名、前兆）の継承に関する基礎・教育実践研究を行っています。環境の価値や災害にまつわる在来知のように目に見えないものを掘り起こして可視化し、その可視化データに基づいて中長期的な視野から持続可能な社会を総合的に構想していく点に魅力を感じています。

専門分野

人文地理学

環境・災害研究

キーワード

持続可能性

災害と環境

社会調査

地理情報システム（GIS）

フィールドワーク



地理情報システム（GIS）を用いた歴史都市京都の研究

歴史都市京都の過去、現在、未来の町並みをコンピュータ上に再現した「バーチャル京都」を構築しています。Google Earthのように、インターネットを介して世界中を旅することができるように、タイムカプセルにのって時間次元を取り込んだ京都の時空間旅行を可能にしたいと考えています。京都には、社寺、京町家のように古くからの建物が多数存在しています。それらの地理情報をデータベース化し、「バーチャル京都」を構築しています。また、日本3大祭の1つで、ユネスコ世界無形文化遺産に指定された祇園祭をコンピュータの中でバーチャルに鑑賞できるシステム作りを、デジタル人文学研究として取り組んでいます。

専門分野

人文地理学

地理情報科学

キーワード

地理情報システム（GIS）

バーチャルシティー

デジタル人文学

祇園祭

京都



地域を歩き、人と話し、社会を読み解く

日本の農村地域では、人口減少などに伴い、その生産機能（農業）や社会的機能（地域活動）に変化が生じています。私の研究は、農村地域でどのように農業や地域活動が持続されてきたのか、また、今後どのように持続していくことが可能かを検討することです。そのために、社会学などで研究が蓄積されてきた社会関係資本の視点から、地域内外の関係を分析しています。研究方法としては、農村をたくさん歩き、地域の人と話し、地域活動に実際に参加するフィールドワークを大切にしています。また、地域の社会的まとまりを考えるために、農業集落カードや国勢調査小地域のデータなどを用いた地理空間分析も行っています。

専門分野

農村地理学

社会地理学

キーワード

農村

社会関係資本

持続可能性



沙漠化とその予防

黄砂。いやですよ。この黄砂の出所、中国の沙漠（化）地帯で、どうして沙漠ができたのかを研究してきました。いまは緑化が進んで沙漠の面積は減ってきていますが、黄砂はまだ日本に飛んできています。国境を越えた環境問題を一緒に解決しようという方、ぜひお越しくください。お待ちしております。

専門分野

自然地理学

中国の環境問題（とくに沙漠化）

キーワード

環境問題

環境史

リモートセンシング

地理情報システム



遠藤 英樹 教授

観光現象やポピュラーカルチャーに関する社会学的研究

観光は地域に何をもたらすのか。観光とメディア文化、観光とポピュラーカルチャーはどのように結びついているのか。観光地で私たちは一体、何を見て、どのような経験を手に入れるのか。観光における「遊び」の要素は、現代においてどのような役割を帯びつつあるのか…。観光現象に関するいろいろな問いに対して、社会学的な視点から研究しています。フィールドワーク（フィールドワーク先として欧米圏や日本も面白いですが、マレーシア、シンガポール、台湾などのアジア圏は今とても熱くて面白いと思います）や理論をふまえた人文・社会科学的な観光研究を通じて、現代社会のあり方をラディカルに問い直そうと思っています。

専門分野 観光社会学 現代文化論 キーワード ツーリズム（観光） ツーリスティックな社会 観光論的転回 ポピュラーカルチャー 近代への問い



小野 真由美 教授

生きることをめぐるツーリズム・モビリティーズに関する文化人類学的研究

長期滞在型観光（ロングステイツーリズム）と国際退職移住、ライフスタイル移住に関する文化人類学的研究を行っています。特に、マレーシアとタイを中心に、東南アジアにおける日本人（若者や高齢者）の長期滞在・移住のあり様について長期フィールドワークを行ってきました。最近、フィリピンでの調査も開始しました。また、医療ツーリズムや高齢者向けの介護リゾートの生成にみられるケアの越境化について、その実態の把握とトランスナショナルな連関を明らかにすることに取り組んでいます。国際退職移住に関する研究は、ウェルネスやウェルビーイング、さらに、高齢者のもつ「迷惑をかけたくない」意識と自立・自律にどのように関わるのかについて探求しています。

専門分野 文化人類学 観光人類学 東南アジア地域研究 キーワード 国際退職移住 (international retirement migration) ライフスタイル移住 (lifestyle migration) ロングステイツーリズム ケアの越境化



河原 典史 教授

近代の植民地朝鮮・台湾とカナダをめぐる移住漁民、近代京都の人びと

近代京都の人びとについて、大縮尺地図から読みとれる歴史地理学からアプローチしています。最近では、当時の京野菜やそれらを使った漬物・缶詰などを研究しています。缶詰産業は、近代の日本とその関係地域と密接に結びついています。長崎壱岐・対馬や五島列島から朝鮮半島、琉球半島から台湾では、さまざまな水産缶詰が生まれては消えていきました。また、第二次大戦前にカナダへ渡った日本人は、カナダ西岸でサケ缶詰産業に従事しました。当時、軽視されていたニシンは塩漬けにされ、日本経由で朝鮮や満州へと送られました。「朝鮮に渡った京都の缶詰」は、近代の太平洋をめぐるヒトとサカナの移動研究の一部なのです。

専門分野 歴史地理学 日本系移民史 キーワード 近代 植民地 カナダ 移民 漁業



神田 孝治 教授

文化／空間論的視座からの観光地の形成過程に関する研究

観光は、楽しさ、憧れ、夢、欲望といったものと密接に関係した現象です。他なる場所にこれらと結びついたイメージが投影されるなかで、観光客が生じ、観光地が創造されるのです。また、観光地という場所は、観光客をはじめとする多様な移動を通じて創り出され、そして変化し続けています。そこで私は、観光客の地理的な想像力や、様々な空間的移動に注目して、観光地が社会的にいかに創造されているのか、またそれがどのように変容しているのかを研究しています。こうした研究は、観光という社会的に周縁的な対象を取り扱いながら、近現代社会の文化的・空間的な特徴を明らかにするものとなっています。観光研究、とりわけ私が専門としている文化や空間に注目した研究は、観光という楽しさと結びついたテーマそれ自体が面白いというばかりでなく、我々が生きる社会について深く探究することができるという、学問的に極めて面白いものなのです。

専門分野 文化地理学 観光学 キーワード 観光 文化 空間 移動 イメージ



山本 理佳 教授

観光資源化のプロセスの研究

産業施設、戦艦、廃墟、廃線跡、空き家…今やどんなものでも「観光資源」となりえる時代です。私は、あるモノが観光対象となっていくプロセスを研究していますが、とくに上記であげたような、無用の長物や嫌われモノが、観光の有用な対象となっていく過程はとても興味深いものです。たとえば廃墟は、負のイメージのノスタルジックな価値への転換や莫大な費用をかけた保存整備など、様々な社会的状況や地域社会の動きが絡みつつ、ようやく観光資源となります。そうした背景や要因を一つ一つ丁寧に追っていくこと、あるいはひも解いていくことが、社会や地域を知ることにつながります。

専門分野 文化地理学 景観論 キーワード 文化遺産 観光資源 景観 政治性 近代都市



小川 真和子 教授

日米関係を「海」の視点から紐解く

私はこれまで、太平洋を越えて国際的な平和運動や社会改良運動などに携わった日本人やアメリカ人の活動について研究してきました。近年ではハワイへ渡った日本人漁業者の、現地における漁労や水産業の育成過程について関心を持っています。日本は周囲の海によって諸外国と隔てられた島国なのではなく、海によって世界とつながり、太平洋世界を構成してきたのだという視点に立って、海を生業の地としてきた水産業関係者の生きざまを追い、日米関係を「海」から捉え直すというのが私の現在の研究テーマです。

専門分野 アメリカ研究 日米関係史 キーワード 日本人漁業者の海外出漁 ハワイ ジェンダー 日米関係



薩摩 真介 教授

海での略奪が合法的だった時代のイギリスの歴史から、戦争、国家、経済の関係を考える

海上で他国の船を襲って積み荷を奪う、こう聞くとそれは海賊なのでは？と思う人もいるかもしれません。しかし16～19世紀のイギリスを含む多くのヨーロッパの国々では、海軍や民間の船が政府の認可を得て戦争中に敵国の船を合法的に略奪することが許されていました。また16世紀のエリザベス女王期の略奪の成功体験を基に、海軍を活用すれば直接的間接的に富が得られるという議論も、当時の英国議会やメディアで盛んに見られました。私の研究では、近世にみられたこのような広義の海軍力行使と利益獲得（の期待）の結びつきがイギリスの政治・外交政策にどのような影響を与えたのか、またそのような略奪を統制する国際ルールは、諸国家や経済的利害集団の間のいかなる関係の中から生まれたのか、ということを探っています。

専門分野 近世イギリス史 植民地時代アメリカ史 大西洋史 キーワード イギリス 海軍 通商 植民地



石川 まりあ 准教授

文学はなぜ「解らなさ」にこだわるのか

“The unknowable”をキーワードに、19世紀アメリカ文学を研究しています。科学発展により知識が拡大した時代に、むしろ「不可知なもの」の意義や成り立ちを追究していた作家たちに関心があります。フレデリック・ダグラス、エミリー・ディキンソン、スインファアなどは、宗教的な謎にくわえ、失われた証拠、奴隷制に奪われた知識、権力をあざむく秘密作りの技法など、生活に根ざした知の限界を描きました。解らなさを見つめることで、彼らはどんな人生の機微に触れたり、社会問題に迫ったり、新たな知のあり方を模索したりしたのか？ そうした探究に、なぜ詩やミステリー、自伝など特定の文学形式が選ばれたのか？ こちらも手探りで考えています。

専門分野 19世紀アメリカ文学・文化 思想史 文学形式 キーワード アメリカ文学 詩・散文 文学と知



岡本 広毅 准教授

中世イングランドの言語・文学とナショナル・アイデンティティ

中世イングランドの言語と文学を研究しています。「世界共通語」となりつつある現代英語のルーツは、中世イングランドに遡ります。英語が歩んできた約1500年の軌跡は、〈地方〉から〈世界〉へと躍進を遂げた一方言の、極めて劇的でダイナミックな成長物語です。英語の地位の向上と世界進出の背後には、人々の言葉に対する情熱やナショナル・アイデンティティ探究の精神が潜んでいます。また、現代ファンタジー文学（『ホビット』や『指輪物語』など）、あるいはRPGゲーム（ドラゴンクエストなど）は、実は中世イギリスや北欧諸国の歴史に深く根差しています。こうした現代の英語文化を深く理解し、違った本質に迫ることこそ、古い言語や文学を学ぶことの醍醐味と言えるでしょう。

専門分野 中世英語英文学 英語の歴史 キーワード 英語のルーツ 中世イングランドの文学 中英語ロマンス 中世主義



栗田 梨津子 准教授

マイノリティの側から多文化社会を読み解く

私は、多文化主義を掲げるオーストラリアの都市社会で生活する先住民のアイデンティティについて、フィールドワークを通じて研究してきました。特に、先住民が日常生活のなかで主流社会と関わり合いながら、多層的なアイデンティティをどのように使い分けているのかに注目し、多文化主義の下で期待される先住民像にいかに対応してきたのかを明らかにしてきました。近年は、自助努力や自己責任を重視する新自由主義的な社会状況のもとで、先住民と移民・難民、白人貧困層の間に、どのような新たな連帯や市民意識が形成されつつあるのかにも関心を広げています。分断や個人主義が強まる現代社会において、多文化共生がどのように可能なのかを探求しています。

専門分野 文化人類学 オーストラリア研究 キーワード 多文化主義 マイノリティ アイデンティティ 市民意識



水島 新太郎 准教授

ジェンダー平等社会について考える

アメリカの歴史やポピュラー文化を中心に、ジェンダーの視点から男性の多様性と雑種性についての当事者研究をしています。特に、弱者としての男性について興味があります。従来の歴史が取り上げてきたのは英雄や政治家といった強者の男性たちです。そんな彼らの陰に埋没した弱者の男性たちの歴史的経験を掘り起こすことなくして、男性中心社会の在り方を変えることはできません。強者は力で他者を支配し、その力を奪われることを恐れる単純な存在です。それに対して、弱者は時として死ぬことすらも恐れない屈強な精神と無限の可能性を内に秘めた存在なのです。

専門分野 アメリカ研究 アメリカ史 男性学 キーワード ジェンダー フェミニズム アメリカの男性史 日米比較文化



山本 めゆ 准教授

アジアの側から南アフリカの人種主義を照らす

南アフリカの人種主義といえば、アフリカ大陸の南端にありながら20世紀末に至るまで少数の「白人」がアフリカ人を支配し、厳格な隔離体制が維持されていたことで知られています。そんな南アフリカで、アジアから到来した人びとはどのように暮らしてきたのでしょうか。そして彼らの存在は当地の人種の秩序にどのような影響を与えてきたのでしょうか。こうした関心に基づき、人種主義やアフリカ-アジア関係、さらにいわゆる「名誉白人」待遇について社会学的な研究を行ってきました。グローバル・サウスの文化や社会を探究することは、私たちがこれまで親しんできた世界を新たな角度から捉えなおす営みでもあります。自分のなかの「当たり前」が揺らぐ経験も、この研究の醍醐味です。

専門分野

南アフリカ研究

アフリカ-アジア関係

キーワード

南アフリカ

人種主義

植民地主義



APPLE MATTHEW THOMAS 教授

第二言語習得における個人差

ある人は言葉を簡単に学びそう、ある人はそれができない。なぜでしょうか？ 私の主研究は、英語を第二言語として学んでいる学習者の個人差について、特に動機づけ・学習ピラーフ・言葉の不安という心理な特性および言語能力や異文化間能力を調べます。

専門分野

英語教育

第二言語習得

キーワード

教育統計

教育心理学

英語教育方法



江口 朗子 教授

第二言語習得研究で得た知見を英語教育に応用する

日本の小学生から大学生までを対象に、第二言語であり外国語である英語がどのように習得されるかというメカニズムを明らかにして、その知見を英語教育に生かすことを目指しています。例えば、学習者は現状でどのような英語力（4技能）や言語知識（語彙や文法などの知識）を持ち合わせているのか、それらにはどのような関連性があり、そして、どのように発達していくのかを調査する研究です。1つの研究プロジェクトで解明できることは、多様な学習者の複雑な習得の仕組みのごくわずかな部分ですが、その知見を踏まえて、学習方法や指導法の違いが習得に与える影響や、学習者の言語能力を評価する最適な方法とは何か、といった問題にも取り組んでいます。

専門分野

第二言語習得論

英語教育学

キーワード

第二言語発達

スピーキング

小中英語教育



久屋 愛実 教授

ひとの数だけことばあり（社会的な生きものとしてのことば）

同じことを言うにもたくさん形式があります。これを社会言語学では「バリエーション」と呼んでいます。例えば「これはここでしか食べられないものだ」と「これはここでしか食べられないものだ」、皆さんどちらを使いますか？ 両者は、一般的には「正用」・「誤用」で判断されがちですが、学術的には話者の属性や発話場面といった「社会的」要素を反映する興味深い現象です。こうしたことばのバリエーションを観察し、ことばと社会のダイナミックな関係性を研究しています。また、コーパスを用いてバリエーションを量的に分析し、ことばの変化を予測する研究も行っています。

専門分野

社会言語学

ことばのバリエーションと変化

キーワード

多様性

言語変異

言語変化



佐野 愛子 教授

言葉をつなぐ、人をつなぐためのバイリンガル教育

世界規模の課題の解決には世界中の連帯が求められます。様々な価値観を柔軟につないでいくバイリンガル教育の視点は、そうしたグローバル化する社会に貢献できると考えています。バイリンガルになること、バイリンガルであることは特殊なことではありません。一般に考えられている以上に日本は多言語社会ですし、多くの人が多様な言語資源を持っています。そうした言語資源を存分に活用して自分の生を豊かにし、社会に貢献していく、それを支えるための教育がバイリンガル教育です。このバイリンガル教育の視点を日本の英語教育にどう取り入れられるのか、実践に近いところで研究をしています。

専門分野

バイリンガル教育

英語教育

キーワード

第二言語習得

言語教育

ライティング



DAVIES MICHAEL JAMES 教授

Applied Linguistics

My main interest is in the field of vocabulary acquisition in a second language. As a teacher of English, I have always been interested in how students can best memorize and use new vocabulary. It is after all, a crucial aspect of learning a new language. In recent years I have become interested in the area of formulaic language and how formulaic sequences can help learners improve their written and spoken fluency. There has been a growth of research in this area in the past two decades, and I am interested in seeing the effect it may have on how we teach vocabulary to learners in years to come.

専門分野

Vocabulary Acquisition in a Second Language

キーワード

Formulaic sequences

collocations



根本 浩行 教授

第二言語学術リテラシーの習得、異文化接触によるアイデンティティ変容

第二言語習得は学習者の内部で発生する習得メカニズムだけでは説明しきれないほどの複雑さを持ちます。そのため、言語を知識として学ぶだけではなく社会に根付いた活動を通して習得するという考えのもとに、学習の状況性やグローバル化時代の流動的コンテクストを考慮することが必要となります。私は、このような視点から、第二言語習得における社会文化的要因に着目し、異文化適応、第二言語学術リテラシー、英語教授法を研究しています。グローバル化によって多様性を増す異文化接触の再概念化に寄与するとともに、リテラシー能力の発達過程とアイデンティティ変容に関する社会言語学的探究を続けていきたいと考えています。

専門分野

社会言語学

社会文化理論を用いた第二言語習得研究

キーワード

社会文化理論

第二言語学術リテラシー

他言語話者への英語教授法

異文化接触

言語管理



杉村 美奈 准教授

ことばの「なぜ」を考える

ことばって不思議ですね。例えば、日本語で「太郎はリンゴを食べた」とは言えますが、同じ意味をもつ文として、「太郎はリンゴが食べた」とは言えませんよね。一方、英語では、Taro ate an appleとなり、日本語の「が」や「を」に相当する格助詞と言われる要素が表面上現れません。私は現在、このような格の文法的役割やそれによってもたらされる意味解釈の差について、先行研究をベースに研究しています。より広い範囲の意味での研究としては、上記のテーマに限らず、私たちが「無意識にもっている知識」の諸側面を対象とし、それに対し理論的な説明を与えるという、理論言語学の考え方に基づくアプローチをしています。

専門分野

理論言語学

キーワード

生成文法

統語論

形態論



占 イン 准教授

学習者の自己主導的なバイリンガル教育

バイリンガルには多くの利点があると考えられています。しかし、バイリンガルになることやバイリンガルであり続けることは複雑です。人々が言語をどのように認識し、使用するかは、それぞれの言語の習得に直接影響します。また、文字なしに言語を維持することは難しいと考えられています。読み書き能力は、子どもたちが就学する前に発達させることができることから、学校での教育の枠を超えています。これまでのバイリンガル発達の研究では、主に親や教師の行動や学習者の口頭でのコミュニケーションスキルに焦点が当てられてきました。私は、読み書きに基づく言語習得における学習者の自主的な取り組みに関心があります。

専門分野

学習者の主体性

バイリンガリズム

バイリンガル教育

キーワード

学習者の主体性

バイリンガリズム

リテラシー

言語コミュニケーション学域



岡本 雅史 教授

言語・非言語コミュニケーションを通じて構築されるリアリティの認知語用論

専門は認知言語学とコミュニケーション研究です。いかにして人間は言語・非言語情報を駆使してコミュニケーションを行っているのか、そしてどのように世界を言語と身体によって分節化し、認知しているのか。さらには、どのようにして世界と現実感（＝リアリティ）を持って接することができるのか、等について考察・研究を進めています。近年は、認知言語学の研究成果を語用論やコミュニケーション研究に応用した〈認知語用論〉を提唱し、漫才対話や精神障害者とのコミュニケーションなどの分析を通じてその可能性を明らかにしようとしています。

専門分野

認知言語学

コミュニケーション研究

キーワード

言語・非言語コミュニケーション

認知

リアリティ

相互行為

レトリック



西岡 亜紀 教授

日本とヨーロッパの文芸・メディアの交流

詩や小説はどのようにして生まれるのかというシンプルな問いを、さまざまな視点から探究しています。これまで、19～20世紀の日本とヨーロッパの詩や小説を主な研究対象としてきました。作家や作品の背景に広がる人や知のネットワークを解明するためです。また、絵解き・版画・紙芝居・マンガなど、民衆の文化伝達や言語教育を支えてきた言語コミュニケーションの研究も並行して続けてきました。多様な表現方法と出会うために、人に会い、各地に赴きます。そうした幅広い研究を土台とし、学生や仲間の教員とともに、新しい時代の言語表現教育を実践しています。

専門分野

日仏比較文学・文化

言語表現教育

キーワード

詩

小説

日仏交流

民衆文化

言語表現教育



城 綾実 准教授

コミュニケーション表現専攻

会話分析が浮き彫りにする相互行為能力の豊かさ

私たちは、さまざまな環境や状況下でやりとりやふるまいを通じて何かを達成したり、喜怒哀楽を感じたりしています。私の研究は、日常で営まれる多様な相互行為を録音・録画してデータとし、社会学由来の会話分析という質的研究方法を用いてそれらの成り立ちや構造を明らかにして、私たちに備わる社会成員としての能力の豊かさを示すことです。データを微細に観察すると、刻々と展開していく出来事に対する人間の反応や対処が、いかに秩序立っているのがよくわかります。また、フィールドワークも取り入れながら、社会的・制度的に十分な評価がされていない対人援助職の専門性を、職員らの諸実践の分析を通して明らかにしようとしています。

専門分野

会話分析

社会的相互行為論

キーワード

身体性

認識可能性

同期現象

専門性



須川 渡 准教授

コミュニケーション表現専攻

身体と言葉でひも解く、パフォーマンスの魅力

舞台芸術やパフォーマンスは、創り手と観客がともに関わることで成立します。俳優やスタッフとして作品をつくる人もいれば、観客として受け取り、それを支える人もいます。このゼミでは、演劇やパフォーマンスを「身体を通じたコミュニケーション」として捉え、その仕組みや特性を研究します。戯曲や演出論を学ぶだけでなく、さまざまなパフォーマンスを観察し、どのように人と関係を築くのかを考えます。また、日常の会話や身振りなどの非言語的なコミュニケーションが、舞台や映像、ライブの場面でどう機能するのかを分析し、表現の持つ力を探究します。演劇やパフォーマンスが好きな人、コミュニケーションに関心がある人、その魅力を言葉で伝えたい人とともに、社会における課題や可能性を考えます。

専門分野

演劇学

パフォーマンス研究

キーワード

演劇

パフォーマンス

表現教育



北出 慶子 教授

言語学・日本語教育専攻

多文化社会における日本語教育と異文化間コミュニケーション

多文化社会を良い方向に創っていくための教育とは何かを研究しています。変わり続ける社会の中で多様性を認め合い、協力し、主体的に何をすべきかを考え行動できるような人の育成に言語教育は何ができるのかに挑戦しています。具体的には、①留学や移住など今まで自分がいたコミュニティと異なる場への参加（越境的学習）経験をした人のアイデンティティの変化や学びの分析、②多様な言語文化背景を持つ人々の間での会話の分析、③留学生と国内学生との学び合い授業（共修）や留学生支援を通したサービسل러ニング授業の開発など。

専門分野

日本語教育

異文化間コミュニケーション

キーワード

多文化社会

異文化接触

日本語教育

越境的学び

談話分析



Coulson David 教授

言語学・日本語教育専攻

第二言語暗示能力の発達、流暢さの発達、第2言語ライティング指導

第2言語語彙能力の鍵は語彙の数だけでなく、その語彙が定着するまでの「再出会い」の数です。大学入学試験は、最低5千英単語が必要です。そして、単語だけでなく定型表現が欠かせない（*No wonder foreign languages are difficult* !）。意図的かつ偶発的な学習両方が大事です。さらに、暗示的能力は（例：留学や英語媒体教育を通して）どのように発達するのか興味深いです。今現在、留学生で見られる暗示的能力とそれにおける定型表の評価方法を開発しています。単語の数、短期記憶力、定型表現の偶発的な学習などの相互作用を調べています。英語圏で留学する日本人の為のテストを作りましたので、日本で留学する中国人の為のテストを今計画しています。

専門分野

応用言語学

語彙習得論

キーワード

語彙

流暢さ

CLIL

教育制度（IMとIB）

ライティング指導



小林 明子 教授

言語学・日本語教育専攻

第二言語としての日本語の習得と心理

「第二言語」として日本語を学んでいる人たちを対象に、日本語学習に関わる心理的要因と効果的な日本語指導の方法について研究しています。みなさんのほとんどは英語を学んだことがあると思いますが、なかには英語に加えて中国語や韓国語などの第二外国語に関心を抱いている人もいないのでしょうか。日本語学習者の場合も多くは、日本語だけではなく英語を学んでいる人がほとんどです。しかし、国際的な言語である「英語」と「（日本語を含む）英語以外の言語」では、学習に対する動機づけや学習にかけられる時間などが異なる場合もあります。私は、このような複言語話者としての日本語学習者に着目し、動機づけの実態や動機づけを高めるための働きかけの方法を探っています。

専門分野

日本語教育

第二言語習得

外国語教授法

キーワード

日本語教師

日本語

教育



佐々木 冠 教授

言語学・日本語教育専攻

日本語方言の文法記述と理論的含意の追求

英語を勉強したときに「自他同形の動詞が多い」と思った方は多いはず。日本語ではかたちが違う「壊す」と「壊れる」が両方とも英語ではbreakです。このような違いは日本語の方言の中にも見られます。標準語には他動詞「折る」に対応する自動詞「折れる」がありますが、他動詞「巻く、積む、貼る」などに対応する自動詞はありません。一方、北海道や東北地方の方言には「巻かざる、積まざる、貼らざる」という自動詞があります。ただし、これらの地方でも全ての他動詞に対応する自動詞があるわけではありません。このような方言の文法的多様性の背後にある秩序を研究しています。

専門分野

日本語方言の文法記述

最適性理論

キーワード

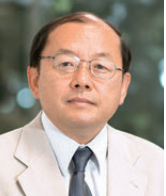
形態音韻論

音韻的不透明性

他動性交替

逆使役

斜格主語



滝沢 直宏 教授

言語学・日本語教育専攻

現代英語の周縁的現象および慣習的側面の研究

現代英語の語法文法を研究しています。具体的には、これまでの研究でその存在さえ気付かれていなかった周縁的な言語現象の発掘とその説明、そして、内省ではなかなか捉えられない言語の慣習的側面の網羅的記述を中心に研究しています。これらの研究には、コーパス（電子化された膨大な言語資料）をコンピュータで処理することが必須になるので、コーパス利用の方法論自体も研究対象にしています。慣習的側面の研究は、言語の表現力向上にも役立つ面があり、近年は「ly副詞の表現論」にも多大な関心をもっています。

専門分野

英語学

コーパス研究

キーワード

英語学

コーパス研究

語法文法

ly副詞



田中 省作 教授

言語学・日本語教育専攻

計算言語学、自然言語処理

私の研究の面白さは、「ことば」と「コンピュータ／数学」といった分野が交わる学際性です。学会や共同研究では、（このように2分するのと思うかもしれませんが）文系と理系の研究者が協力し合って研究を遂行することも少なくありません。そういった人的な交流は、まるで小さな異文化コミュニケーションといった感じで、とても刺激的です。

専門分野

言語学

情報科学

キーワード

言語学

情報科学

言語教育

少数言語



平田 裕 教授

言語学・日本語教育専攻

筆記テスト時と日本語会話時の脳活動の近似性と相違性

近年の外国語教育では、「運用力」「会話力」「コミュニケーション能力」などが重視されています。しかし、教育成果の検証は今でも知識を問う筆記テストに頼っている部分が大きく、筆記テストの好成績が会話力につながっていないということもよくあることです。会話力向上のために使える筆記テストはないだろうか？これが研究の動機です。脳科学の手法を用いて、日本語学習者の筆記テスト時と日本語会話時の脳の使い方の近似性・相違性を研究しています。

専門分野

日本語教育学

日本語学

キーワード

日本語教授法

脳科学

筆記テスト

言語変化

属格



山崎 のぞみ 教授

言語学・日本語教育専攻

話し言葉文法を解き明かす

口語英語コーパスを使って、英語の話し言葉の実態を探る研究をしています。話し言葉を収集したコーパスの編集が進み、インフォーマルな会話の言語研究に取り組みやすくなりました。私たちは会話という「待ったなし」の状況で、「相手がいるからこそ」の言語の使い方をしています。相づち一つとってもそうでしょう。言語を人と人のコミュニケーションや社会の営みの中でとらえると、これまで「間違い」や「例外」、「規格外」と思われていた言語現象にも重要な意味があることが見えてきます。また、話し言葉文法研究を英語教育へ応用することによって、インタラクション指導や文法指導、教材開発などに新たな視点を提供したいと考えています。

専門分野

英語学

英語教育学

キーワード

談話分析

語用論

話し言葉文法

コーパス